

Hitachi Command Suite

Compute Systems Manager

CLI リファレンスガイド

3021-9-099-20

対象製品

Hitachi Compute Systems Manager 8.4.0

適用 OS の詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

HITACHI は、株式会社日立製作所の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

RSA および BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SUSE は、米国およびその他の国における SUSE LLC の登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Hitachi Compute Systems Manager には、日本電気株式会社が著作権を有している部分が含まれています。

Hitachi Compute Systems Manager は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE[®] ソフトウェアを搭載しています。

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (<http://java.apache.org/>).

This product includes software developed by Andy Clark.

Java is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

HITACHI
Inspire the Next

 株式会社 日立製作所



発行

2016年2月 3021-9-099-20

著作権

All Rights Reserved. Copyright © 2014, 2016, Hitachi, Ltd.

目次

はじめに.....	7
対象読者.....	8
マニュアルの構成.....	8
マイクロソフト製品の表記について.....	8
このマニュアルで使用している記号.....	8
1. Compute Systems Manager の CLI の概要.....	11
1.1 Compute Systems Manager の CLI とは.....	12
1.2 Compute Systems Manager の CLI の環境変数とは.....	12
1.3 Compute Systems Manager の CLI をインストールする (Windows)	13
1.4 Compute Systems Manager の CLI をインストールする (Linux)	14
2. CLI コマンドリファレンス.....	15
2.1 CLI コマンドの実行書式とコマンド一覧.....	17
2.2 CLI コマンドを実行できるユーザーのロール.....	18
2.3 configure.....	19
2.4 login.....	20
2.5 logout.....	21
2.6 ping.....	22
2.7 help.....	22
2.8 GetAlerts (getalerts)	24
2.9 GetHost (gethost)	26
2.10 GetHostAlert (gethostalert)	27
2.11 GetHostCPU (getcpu)	29
2.12 GetHostFCNetwork (getfc)	30
2.13 GetHostFileSystem (getfilesystem)	32
2.14 GetHostIPNetwork (getip)	33
2.15 GetHostMemory (getmemory)	34
2.16 GetHostOs (getos)	36
2.17 GetHostPCI (getpci)	37
2.18 GetHostRemoteManagement (getrmtmgmt)	39
2.19 GetBlade (getblade)	40
2.20 GetChassis (getchassis)	46
2.21 GetTaskInfo (gettaskinfo)	48

2.22 PowerOFF (poweroff)	50
2.23 PowerOFFServer (poweroffserver)	51
2.24 PowerON (poweron)	53
2.25 PowerONServer (poweronserver)	54
2.26 RebootOS (rebootos)	56
2.27 ShutdownOS (shutdownos)	57
2.28 NpmFailover (npmfailover)	58
2.29 NpmFailback (npmfailback)	60
2.30 NpmReassign (npmreassign)	62
2.31 DpmBackup (dpmbackup)	63
2.32 DpmRestore (dpmrestore)	66
2.33 DpmDeleteImageFile (dpmdeleteimagefile)	68
2.34 DpmSnapshot (dpmsnapshot)	69
2.35 DpmCreateTemplate (dpmcreatetemplate)	72
2.36 DpmDeploy (dpmdeploy)	79
3. トラブルシューティング	83
3.1 JRE のトラブルシューティング	84
付録 A 取得系コマンドの出力形式	85
A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式	86
A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式	88
A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式	89
付録 B このマニュアルの参考情報	91
B.1 関連マニュアル	92
B.2 このマニュアルでの表記	92
B.3 英略語	92
B.4 KB (キロバイト) などの単位表記について	93
B.5 ディレクトリとフォルダの表記について	93
索引	95



はじめに

このマニュアルは、Hitachi Compute Systems Manager の CLI の使用方法について説明したものです。

以降、このマニュアルでは、Hitachi Compute Systems Manager を Compute Systems Manager と呼びます。

- 対象読者
- マニュアルの構成
- マイクロソフト製品の表記について
- このマニュアルで使用している記号

対象読者

このマニュアルは、Compute Systems Manager の CLI を使用してサーバ管理システムを運用および管理する方を対象としています。

前提 OS に関する基本的な知識があることを前提としています。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

1. Compute Systems Manager の CLI の概要

Compute Systems Manager の CLI の概要、環境変数、およびインストール方法について説明しています。

2. CLI コマンドリファレンス

CLI コマンドの使用方法について説明しています。

3. トラブルシューティング

Compute Systems Manager の CLI のトラブルシューティング情報について説明しています。

付録 A. 取得系コマンドの出力形式

情報を取得するためのコマンドの出力形式について説明しています。

付録 B. このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Windows	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft® Windows® 7• Windows® 8• Windows® 8.1• Microsoft® Windows Server® 2003• Microsoft® Windows Server® 2003 R2• Microsoft® Windows Server® 2008• Microsoft® Windows Server® 2008 R2• Microsoft® Windows Server® 2012• Microsoft® Windows Server® 2012 R2• Microsoft® Windows Vista®

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味と例
[] (角括弧)	GUI 操作の説明

記号	意味と例
	メニュータイトル、メニュー項目、およびボタンの名称を示します。メニュー項目を連続して選択する場合は、[]を「-」（ハイフン）でつないで説明しています。

コマンドの書式の説明では、次に示す記号を使用しています。

記号	意味と例
 (ストローク)	複数の項目に対して項目間の区切りを示し、「または」の意味を示します。 (例) 「A B C」は、「A, B, または C」を示します。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず一組の項目を選択します。項目と項目の区切りは「 」で示します。 (例) 「{A B C}」は、「A, B, または C のどれかを必ず指定する」ことを示します。
[] (角括弧)	この記号で囲まれている項目は、任意に指定できます (省略できます)。 (例) 「[A]」は、「必要に応じて A を指定する」ことを示します (必要でない場合は、A を省略できます)。 「[B C]」は、「必要に応じて B, または C を指定する」ことを示します (必要でない場合は、B および C を省略できます)。
... (点線)	記述が省略されていることを示します。この記号の直前に示された項目を繰り返し複数個指定できます。 (例) 「A,B,C...」は、「A と B の後ろに C を複数個指定できる」ことを示します。
< > (山括弧)	可変値であることを示します。

このマニュアルでは、次に示すアイコンを使用します。

アイコン	ラベル	説明
	重要	重要情報や追加情報を説明します。
	参考	より効率的に業務を行うために、知っておくと役に立つ情報や指針となる情報を説明します。
	注意	作業する上で注意しなければいけないことを説明します。
	警告	重大なエラーを避けるために、注意しなければいけないことを説明します。

Compute Systems Manager の CLI の概要

この章では、Compute Systems Manager の CLI の概要、環境変数、およびインストール方法について説明します。

- 1.1 Compute Systems Manager の CLI とは
- 1.2 Compute Systems Manager の CLI の環境変数とは
- 1.3 Compute Systems Manager の CLI をインストールする (Windows)
- 1.4 Compute Systems Manager の CLI をインストールする (Linux)

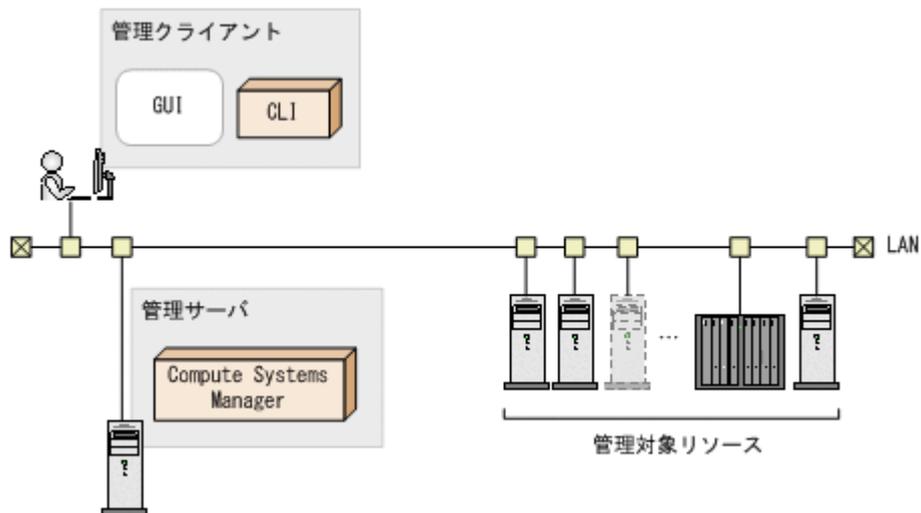
1.1 Compute Systems Manager の CLI とは

Compute Systems Manager の CLI を使用すると、コマンドラインから次の操作を実行できます。

- 管理対象リソースに関する情報を取得する
- 管理対象リソースの電源を制御する
- N+M コールドスタンバイを利用する
- デプロイメントマネージャーを利用する

CLI を使用するには、Compute Systems Manager を操作するマシン（管理クライアント）に CLI をインストールする必要があります。また、Compute Systems Manager をインストールしたマシン（管理サーバ）へのログインが必要です。

Compute Systems Manager のシステム構成を次に示します。



1.2 Compute Systems Manager の CLI の環境変数とは

Compute Systems Manager の CLI には 2 つの環境変数があります。

- HCSM_CLI_JRE_PATH

JRE のインストールパスを指定する変数です。

- CSMHOME

CLI で使用する設定ファイルのパスを指定する変数です。

同一のクライアント上で複数のユーザーが CLI を使用する場合、CSMHOME 環境変数で、ユーザーごとに異なるディレクトリを指定する必要があります。

CSMHOME 環境変数が指定されていない場合、設定ファイルは HOME または USERPROFILE 環境変数で指定されたディレクトリに保存されます。HOME 環境変数は Linux、USERPROFILE 環境変数は Windows によって設定される環境変数であり、ユーザーが設定する必要はありません。

CLI を実行すると、次の順に従って、設定ファイルが検索されます。

- a. CSMHOME
- b. HOME
- c. USERPROFILE

最初に見つかった設定ファイルが読み込まれます。

関連コマンド

- [2.3 configure](#)

関連項目

- [1.3 Compute Systems Manager の CLI をインストールする \(Windows\)](#)
- [1.4 Compute Systems Manager の CLI をインストールする \(Linux\)](#)

1.3 Compute Systems Manager の CLI をインストールする (Windows)

Compute Systems Manager の CLI をインストールする手順を説明します。

事前に確認しておく情報

- CLI の前提である JRE のバージョンとインストール状態
JRE のバージョンの詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。

次の手順で、CLI をインストールしてください。

1. GUI のグローバルタスクバーエリアで、[ツール] - [ダウンロード] を選択します。
2. JRE をインストールしていない場合、[プラットフォームに合ったファイルを選択してください。] の [JRE] の行にある [Oracle (Website)] をクリックし、JRE をインストールします。
3. [プラットフォームに合ったファイルを選択してください。] の [Windows] の行にある [ダウンロード] をクリックします。
4. CLI をインストールするマシンに CSMcli_win.exe ファイルを保存し、解凍します。
5. 次の環境変数を設定します。
 - HCSM_CLI_JRE_PATH
設定例：
HCSM_CLI_JRE_PATH=C:\Program Files\Java\jre6
 - CSMHOME
設定例：
CSMHOME=< CSMcli_win.exe を解凍したディレクトリ >\home
6. コマンドプロンプトを起動し、CLI を解凍したディレクトリに移動します。
7. CLI の **configure** コマンドを実行します。
8. CLI の **login** コマンドを実行してログインします。

関連コマンド

- [2.3 configure](#)
- [2.4 login](#)

関連項目

- [1.2 Compute Systems Manager の CLI の環境変数とは](#)

1.4 Compute Systems Manager の CLI をインストールする (Linux)

Compute Systems Manager の CLI をインストールする手順を説明します。

事前に確認しておく情報

- CLI の前提である JRE のバージョンとインストール状態
JRE のバージョンの詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。

次の手順で、CLI をインストールしてください。

1. GUI のグローバルタスクバーエリアで、[ツール] – [ダウンロード] を選択します。
2. JRE をインストールしていない場合、[プラットフォームに合ったファイルを選択してください。] の [JRE] の行にある [Oracle (Website)] をクリックし、JRE をインストールします。
3. [プラットフォームに合ったファイルを選択してください。] の [Linux] の行にある [ダウンロード] をクリックします。
4. CLI をインストールするマシンに CSMcli_lin.tar ファイルを保存し、解凍します。

例：

```
/opt/hcsmcli に解凍する場合
```

```
# mkdir /opt/hcsmcli
```

```
# cd /opt/hcsmcli
```

```
# tar xvf < CSMcli_lin.tar をダウンロードしたディレクトリ > /CSMcli_lin.tar
```

5. 次の環境変数を設定します。
 - HCSM_CLI_JRE_PATH
設定例：
HCSM_CLI_JRE_PATH=/opt/Java/jre6
 - CSMHOME
設定例：
CSMHOME=< CSMcli_lin.tar を解凍したディレクトリ > /home
6. CLI の **configure** コマンドを実行します。
7. CLI の **login** コマンドを実行してログインします。

関連コマンド

- 2.3 configure
- 2.4 login

関連項目

- 1.2 Compute Systems Manager の CLI の環境変数とは

CLI コマンドリファレンス

この章では、CLI コマンドの使用方法について説明します。

- 2.1 CLI コマンドの実行書式とコマンド一覧
- 2.2 CLI コマンドを実行できるユーザーのロール
- 2.3 configure
- 2.4 login
- 2.5 logout
- 2.6 ping
- 2.7 help
- 2.8 GetAlerts (getalerts)
- 2.9 GetHost (gethost)
- 2.10 GetHostAlert (gethostalert)
- 2.11 GetHostCPU (getcpu)
- 2.12 GetHostFCNetwork (getfc)
- 2.13 GetHostFileSystem (getfilesystem)
- 2.14 GetHostIPNetwork (getip)
- 2.15 GetHostMemory (getmemory)
- 2.16 GetHostOs (getos)
- 2.17 GetHostPCI (getpci)
- 2.18 GetHostRemoteManagement (getrmtgmt)

- ❑ 2.19 GetBlade (getblade)
- ❑ 2.20 GetChassis (getchassis)
- ❑ 2.21 GetTaskInfo (gettaskinfo)
- ❑ 2.22 PowerOFF (poweroff)
- ❑ 2.23 PowerOFFServer (poweroffserver)
- ❑ 2.24 PowerON (poweron)
- ❑ 2.25 PowerONServer (poweronserver)
- ❑ 2.26 RebootOS (rebootos)
- ❑ 2.27 ShutdownOS (shutdownos)
- ❑ 2.28 NpmFailover (npmfailover)
- ❑ 2.29 NpmFailback (npmfailback)
- ❑ 2.30 NpmReassign (npmreassign)
- ❑ 2.31 DpmBackup (dpmbackup)
- ❑ 2.32 DpmRestore (dpmrestore)
- ❑ 2.33 DpmDeleteImageFile (dpmdeleteimagefile)
- ❑ 2.34 DpmSnapshot (dpmsnapshot)
- ❑ 2.35 DpmCreateTemplate (dpmcreatetemplate)
- ❑ 2.36 DpmDeploy (dpmdeploy)

2.1 CLI コマンドの実行書式とコマンド一覧

CLI コマンドの書式を次に示します。

csm [**<コマンド>** [**<オプションまたはパラメーター>**...]]

指定できるコマンドの一覧を次に示します。

コマンド	説明
CLI を使うためのコマンド	
configure	CLI をインストールした管理クライアントが、管理サーバと接続できるように CLI を設定します。
login	管理サーバの Compute Systems Manager にログインします。
logout	管理サーバの Compute Systems Manager からログアウトします。
ping	管理サーバとの通信状態をテストします。
help	コマンドのヘルプ情報を表示します。
管理対象リソースに関する情報を取得するためのコマンド	
GetAlerts	すべてのアラート情報を対象に特定の条件で取得できます。
GetHost	管理対象ホストに関するサマリー情報を取得します。
GetHostAlert	管理対象ホストに関するアラート情報を取得します。
GetHostCPU	管理対象ホストに関する CPU の詳細情報を取得します。
GetHostFCNetwork	管理対象ホストに関する FC アダプターの詳細情報を取得します。
GetHostFileSystem	管理対象ホストに関するファイルシステムの詳細情報を取得します。
GetHostIPNetwork	管理対象ホストに関する LAN の詳細情報を取得します。
GetHostMemory	管理対象ホストに関するメモリーの詳細情報を取得します。
GetHostOs	管理対象ホストに関する OS 情報を取得します。
GetHostPCI	管理対象ホストに関する PCI デバイスの詳細情報を取得します。
GetHostRemoteManagement	BMC が設定された管理対象ホストのデバイス情報を取得します。
GetBlade	管理対象ブレードに関するサマリー情報を取得します。
GetChassis	管理対象シャーシに関するサマリー情報を取得します。
GetTaskInfo	登録されたすべてのタスクの状態と ID を取得します。
管理対象リソースの電源を制御するためのコマンド	
PowerOFF	管理対象ホストをシャットダウンしないで電源を OFF にするタスクを登録します。
PowerOFFServer	稼働している OS をシャットダウンしないで、管理対象ブレードの電源を OFF にするタスクを登録します。
PowerON	管理対象ホストの電源を ON にするタスクを登録します。
PowerONServer	管理対象ブレードの電源を ON にするタスクを登録します。
RebootOS	管理対象ホストをリブートするタスクを登録します。
ShutdownOS	管理対象ホストをシャットダウンするタスクを登録します。
N+M コールドスタンバイを利用するためのコマンド※	
NpmFailover	指定した N+M コールドスタンバイグループにある現用ブレードを指定して、予備ブレードに切り替えるタスクを登録します。
NpmFailback	指定した N+M コールドスタンバイグループにある切り替え済みの予備ブレードから、指定した現用ブレードに切り戻すタスクを登録します。
NpmReassign	指定した N+M コールドスタンバイグループにある切り替え済みの予備ブレードを指定して、現用ブレードに変更するタスクを登録します。

コマンド	説明
デプロイメントマネージャーを利用するためのコマンド※	
DpmBackup	指定した管理対象リソースのディスク全体、またはパーティションのバックアップイメージファイルを取得するタスクを登録します。
DpmRestore	指定した管理対象リソースのディスク全体、またはパーティションをバックアップイメージファイルを使ってリストアするタスクを登録します。
DpmDeleteImageFile	指定したイメージファイルを管理サーバから削除します。
DpmSnapshot	指定した管理対象リソースのディスク全体、またはパーティションのスナップショットイメージを取得するタスクを登録します。
DpmCreateTemplate	指定した既存のデプロイテンプレートをひな形にして、新しいデプロイテンプレートを作成します。
DpmDeploy	指定した管理対象リソースにマスターイメージをデプロイするタスクを登録します。

注※

コマンドの実行にはプラグインライセンスが必要です。プラグインライセンスは GUI で登録および管理します。手順については、マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

CLI コマンドの実行例を次に示します。

csm login

コマンドの実行結果は標準出力に表示されます。

2.2 CLI コマンドを実行できるユーザーのロール

ユーザーが属するユーザーグループに割り当てられるロールを次に示します。

- **Admin** ロール
管理対象リソースの操作、リソース情報の参照、システム設定の参照などができます。さらに、ユーザーが属するユーザーグループに **All Resources** が割り当てられている場合は、管理対象となるリソースの登録、システム設定の変更ができます。
- **Modify** ロール
管理対象リソースの操作、リソース情報の参照ができます。
- **View** ロール
リソース情報の参照ができます。

CLI コマンドを実行するユーザーには、対象のリソースに対するロールが必要です。

ユーザーが属するユーザーグループにコマンド実行対象のリソースが属するリソースグループと必要なロールを割り当ててください。

ロールは GUI で設定します。設定手順については、マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

CLI コマンドごとに、必要なロールを次の表に示します。

コマンド	ロール		
	Admin	Modify	View
configure	○	○	○
login	○	○	○

コマンド	ロール		
	Admin	Modify	View
logout	○	○	○
ping	○	○	○
help	○	○	○
GetAlerts	○	○	○
GetHost	○	○	○
GetHostAlert	○	○	○
GetHostCPU	○	○	○
GetHostFCNetwork	○	○	○
GetHostFileSystem	○	○	○
GetHostIPNetwork	○	○	○
GetHostMemory	○	○	○
GetHostOs	○	○	○
GetHostPCI	○	○	○
GetHostRemoteManagement	○	○	○
GetBlade	○	○	○
GetChassis	○	○	○
GetTaskInfo	○	○	○
PowerOFF	○	○	×
PowerOFFServer	○	○	×
PowerON	○	○	×
PowerONServer	○	○	×
RebootOS	○	○	×
ShutdownOS	○	○	×
NpmFailover	△	△	×
NpmFailback	△	△	×
NpmReassign	△	△	×
DpmBackup	△	△	×
DpmRestore	△	△	×
DpmDeleteImageFile	△	×	×
DpmSnapshot	△	△	×
DpmCreateTemplate	△	×	×
DpmDeploy	△	△	×

(凡例)

○ : コマンドが実行できる

× : コマンドが実行できない

△ : ユーザーが属するユーザーグループに All Resources が割り当てられている場合だけコマンドが実行できる

2.3 configure

CLI をインストールした管理クライアントが、管理サーバと接続できるように CLI を設定します。

CLI を使用するとき、管理サーバと管理クライアントが異なるマシンである場合は、**configure** コマンドでの設定が必要です。管理サーバと管理クライアントが同一マシンであり、かつ SSL を使用しない場合、**configure** コマンドでの設定は不要です。

configure コマンドを実行すると、次の項目について、入力を要求されます。デフォルトの値を使用する場合、値の入力は不要です。

- 管理サーバのホスト名または IP アドレス
 - 管理サーバのポート番号
 - SSL の使用有無
- 管理サーバと通信するために SSL を使用するかどうかを入力します。

コマンドを実行すると、**CSMHOME** 環境変数で指定したディレクトリに、設定ファイル(.csmrc) が作成されます。すでに設定ファイルがある場合は、設定内容を更新できます。設定ファイルを更新する場合、設定ファイル内のコメントは保持されます。

configure コマンドは、入力された管理サーバとの通信状態のテストも実行します。管理サーバが起動していない場合、コマンドの実行を継続するか応答要求があります。

構文

```
csm configure
```

オプション

なし

例

対話形式で CLI を設定する例を次に示します。

```
Client1>csm configure
KASV23804-I The .csmrc file in "C:\user\fred" (CSMHOME) has been read.
HCSM server host name [localhost]:172.17.79.47
Use SSL (y/n) ?[n]:
HCSM server port number [22015]:
KASV23800-I The HCSM server is up and running.
Overwrite existing .csmrc file at "C:\user\fred\csmrc" (y/n) ?[n]:
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

関連コマンド

なし

関連項目

- 1.2 Compute Systems Manager の CLI の環境変数とは

2.4 login

管理サーバの Compute Systems Manager にログインします。

管理サーバに接続したあと、CLIを使用して任意の管理対象ホストの情報を取得したり、電源操作を実施したりできるようになります。

ログインセッションがアイドル状態のまま、サーバ管理者が設定した特定の時間が過ぎると、セッションは時間切れとなり、システムからログオフされます。

構文

```
csm login [-user <ユーザー名>] [-password <パスワード>]
```

オプション

オプション	説明
-user	ログインするユーザー名を指定します。
-password	ログインするユーザーのパスワードを指定します。

例

```
Client1>csm login
HCSM[http://localhost:22015/ComputeSystemsManager] Login :admin
Password :
KASV23801-I Login successful.
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

関連コマンド

- [2.5 logout](#)

2.5 logout

管理サーバの Compute Systems Manager からログアウトします。

構文

```
csm logout
```

オプション

なし

例

```
Client1>csm logout
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

関連コマンド

- 2.4 login

2.6 ping

管理サーバとの通信状態をテストします。環境が正しく設定されていること、および管理サーバが起動していることを確認するために使用します。

このコマンドを実行すると、管理サーバにアクセスして、バージョン情報を取得できます。

構文

```
csm ping
```

オプション

なし

例

```
Client1>csm ping
Pinging server at http://172.17.79.47:22015/ComputeSystemsManager:
Response time : 1656msec
Timestamp at server : 2011/10/11 16:09:39
Product Version : 8.0.0
Supported protocol version range : from 1 to 1
Deprecated protocol version : equal or below 0
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

関連コマンド

なし

2.7 help

コマンドのヘルプ情報を表示します。

構文

```
csm help [<コマンド> [<コマンド>...]]
```

パラメーター

パラメーター	説明
コマンド	ヘルプを表示するコマンドを指定します。特定のコマンドを指定しないで実行すると、コマンド一覧が表示されます。

例

すべてのコマンド一覧を表示します。

```
Client1>csm help
```

```
Command shell to issue commands to the CSM server.
```

```
usage :csm [<subcommand> <args...>]
```

This command will run one or more subcommands.

If you are connecting to a CSM server on the localhost, no configuration is necessary.

To access a remote CSM server, specify the server host by executing a "configure" command.

After specifying the host use "csm ping" to test communication with the server. Then use "csm login" to establish a session.

Available subcommands (short forms shown in parentheses):

```
configure
help
ping
login
logout
GetHost (gethost)
GetHostAlert (gethostalert)
GetHostCPU (getcpu)
GetHostFCNetwork (getfc)
GetHostFileSystem (getfilesystem)
GetHostIPNetwork (getip)
GetHostMemory (getmemory)
GetHostRemoteManagement (getrmtgmt)
GetHostOs (getos)
GetHostPCI (getpci)
GetAlerts (getalerts)
GetBlade (getblade)
GetChassis (getchassis)
GetTaskInfo (gettaskinfo)
RebootOS (rebootos)
ShutdownOS (shutdownos)
PowerON (poweron)
PowerOFF (poweroff)
PowerONServer (poweronserver)
PowerOFFServer (poweroffserver)
DpmBackup (dpmbackup)
DpmRestore (dpmrestore)
DpmSnapshot (dpmsnapshot)
DpmDeploy (dpmdeploy)
DpmDeleteImageFile (dpmdeleteimagefile)
DpmCreateTemplate (dpmcreatetemplate)
NpmFailover (npmfailover)
NpmFailback (npmfailback)
NpmReassign (npmreassign)
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

関連コマンド

なし

2.8 GetAlerts (getalerts)

管理対象ホストから次の情報を取得します。

- 対策中 (In progress) のアラート
- 解決 (Resolved) のアラート
- 未対処 (Unconfirmed) のアラート
- 特定の日以降に生成されたアラート
- アラートの最大表示件数

status, datefilter, countfilter パラメーターを指定して **GetAlerts** コマンドを実行すると、条件に一致したアラートの詳細情報を取得できます。

構文

```
csm {GetAlerts | getalerts} [status={RESOLVED | INPROGRESS | UNCONFIRMED}] [datefilter=< YYYY/MM/DD >] [countfilter=< count >] [-count | -describe][-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
status	指定の状態のアラートを表示します。status には、RESOLVED、INPROGRESS、または UNCONFIRMED のどれかを指定できます。status を指定しない場合は、未対処 (UNCONFIRMED) 状態のアラートが表示されます。
datefilter	< YYYY/MM/DD > の形式で指定した日付以降のアラートが表示されます。
countfilter	表示するアラートの最大数を指定します。データベースから取得できるアラートのうち、最新のアラートから数えて countfilter に指定したアラート数分だけ表示されます。countfilter を指定しない場合は、すべてのアラートが表示されます。
-count	管理対象ホストのアラートのうち、条件に一致するアラートの件数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行にアラートの件数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。 -format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- **login** コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

すべての管理対象ホストに関する、最新のアラート情報 2 件を表示します。

```
Client1>csm GetAlerts countfilter=2
ReceivedAlertInfo Instance
  alertDescription: ホスト上のサービスで障害レベルの SNMP トラップが発生しました。
  alertLevel: Error
  hostName: DEMO-SYS-8-48
  alertId: 0x0300
  occurredTime: 2014-01-08 16:23:19
  modifiedTime:
  status: Unconfirmed
ReceivedAlertInfo Instance
  alertDescription: ホスト上のドライバーで障害レベルの SNMP トラップが発生しました。
  alertLevel: Error
  hostName: DEMO-SYS-8-48
  alertId: 0x0010
  occurredTime: 2014-01-08 16:20:06
  modifiedTime:
  status: Unconfirmed
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を `-format` オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
ReceivedAlertInfo	alertDescription	アラート内容が表示されます。
	alertLevel	アラートレベルが表示されます。 [Error, Warning, Information]
	hostName	ホスト名が表示されます。
	alertId	アラート ID が表示されます。
	occurredTime	アラートの受信時間が表示されます。
	modifiedTime	アラートのステータスが変更された時間が表示されます。
	status	アラートの対処状況が表示されます。 [Unconfirmed, In Progress, Resolved]

関連コマンド

- [2.9 GetHost \(gethost\)](#)
- [2.10 GetHostAlert \(gethostalert\)](#)

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式](#)

2.9 GetHost (gethost)

管理対象ホストに関するサマリー情報を取得します。

構文

```
csm {GetHost | gethost} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	サマリー情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	管理対象ホストのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1行に管理対象ホストの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

ホスト (HostSystem1) のサマリー情報を表示します。

```
Client1>csm gethost hostname=HostSystem1
Host Instance
  hostName: HostSystem1
  osName: Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
  manufacturer: Hitachi
  ipAddress: 172.17.79.48
  productName: ComputeBlade 520HB1
  hostStatus: Running
  serialNumber: EEDB1242-F9DE-59AA-E92D-CE2200213535
  lastRefreshed: 2011-08-29 15:59:06
  error: 46
  warning: 38
  information: 28
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を `-format` オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
Host	hostName	ホスト名が表示されます。
	osName	OS 名が表示されます。
	manufacturer	ベンダーが表示されます。
	ipAddress	IP アドレスが表示されます。
	productName	プロダクト名称が表示されます。
	hostStatus	ホストの稼働状態が表示されます。 [Running, Stopped, Unknown]
	serialNumber	シリアル番号が表示されます。
	lastRefreshed	最終更新日時が表示されます。
	error	障害アラート数が表示されます。
	warning	警告アラート数が表示されます。
	information	情報アラート数が表示されます。

関連コマンド

- [2.10 GetHostAlert \(gethostalert\)](#)

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式](#)

2.10 GetHostAlert (gethostalert)

管理対象ホストに関するアラート情報を取得します。

構文

```
csm {GetHostAlert | gethostalert} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	アラート情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	管理対象ホストのアラートのうち、条件に一致するアラートの件数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行にアラートの件数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。

オプションまたはパラメーター	説明
	-format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。 -format には、csv、csv-no-header（ヘッダーなし CSV）、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

すべての管理対象ホストに関する、アラート件数を表示します。

```
Client1>csm gethostalert -count
112
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を -format オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
RecievedAlertInfo	hostName	ホスト名が表示されます。
	alertId	アラート ID が表示されます。
	alertLevel	アラートレベルが表示されます。 [Error, Warning, Information]
	failureLocationName	アラート発生個所が表示されます。
	occurredTime	アラートの受信時間が表示されます。
	alertDescription	アラート内容が表示されます。
	status	アラートのステータスが表示されます。 [Unconfirmed, In Progress, Resolved]

関連コマンド

- [2.8 GetAlerts \(getalerts\)](#)
- [2.9 GetHost \(gethost\)](#)

関連項目

- A.1 `-format` オプションを指定した場合の出力形式
- A.2 `-count` オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 `-describe` オプションを指定した場合の出力形式

2.11 GetHostCPU (getcpu)

管理対象ホストに関する CPU の詳細情報を取得します。

構文

```
csm {GetHostCPU | getcpu} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	CPU の詳細情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	管理対象ホストのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行に管理対象ホストの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

ホスト (HostSystem2) の CPU の詳細情報を表示します。

```
Client1>csm GetHostCPU hostname=HostSystem2
Cpu Instance
  hostName: HostSystem2
  cpuName: Intel(R) Xeon(R) CPU E5-2650 v3 @ 2.30GHz
  frequencyInMhz: 2301.0
  numberOfCpus: 2
  numberOfCores: 10
  l2CacheSizeInKB: 2560.0
  l3CacheSizeInKB: 25600.0
```

戻り値

値	意味
0	成功

値	意味
1	失敗

出力項目

次に示す項目を-format オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
Cpu	hostName	ホスト名が表示されます。
	cpuName	CPU 名が表示されます。
	frequencyInMhz	CPU 周波数が表示されます。
	numberOfCpus	CPU 数が表示されます。
	numberOfCores	コア数が表示されます。
	l2CacheSizeInKB	L2 キャッシュサイズが表示されます。
	l3CacheSizeInKB	L3 キャッシュサイズが表示されます。

関連コマンド

- 2.9 GetHost (gethost)

関連項目

- A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式
- A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式

2.12 GetHostFCNetwork (getfc)

管理対象ホストに関する FC アダプターの詳細情報を取得します。

構文

```
csml {GetHostFCNetwork | getfc} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	FC アダプターの詳細情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	管理対象ホストの FC アダプターのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行に FC アダプターの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。

オプションまたはパラメーター	説明
	-format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。 -format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

ホスト (HostSystem1) の FC アダプターの詳細情報を取得します。

```
Client1>csm GetHostFCNetwork hostname=HostSystem1
FCNetwork Instance
  hostName: HostSystem1
  adapterName: Hitachi HFCE0802          FW: 0030044D DRV: 4.1.6.790
  wwpn: 23:45:67:89:AB:CD:EF:00
  wwnn: 23:45:67:89:AB:CD:EF:01
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を `-format` オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
FCNetwork	hostName	ホスト名が表示されます。
	adapterName	アダプター名が表示されます。
	wwpn	割り当てられた World Wide Port Name が表示されます。
	wwnn	割り当てられた World Wide Node Name が表示されます。

関連コマンド

- [2.9 GetHost \(gethost\)](#)
- [2.14 GetHostIPNetwork \(getip\)](#)

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式](#)

2.13 GetHostFileSystem (getfilesystem)

管理対象ホストに関するファイルシステムの詳細情報を取得します。

構文

```
csm {GetHostFileSystem | getfilesystem} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	ファイルシステムの詳細情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	管理対象ホストのファイルシステムのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1行にファイルシステムの数だけが表示されません。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

ホスト (HostSystem1) のファイルシステムの詳細情報を表示します。

```
Client1>csm GetHostFileSystem hostname=HostSystem1
FileSystem Instance
  hostName: HostSystem1
  driveName: C:
  driveType: Local Disk
  fileType: NTFS
  totalSizeInMB: 476937.5
  usedSizeInMB: 109374.1
  freeSizeInMB: 367563.3
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を-format オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
FileSystem	hostName	ホスト名が表示されます。
	driveName	ドライブ名称が表示されます。
	driveType	ドライブの種別が表示されます。
	fileSystemType	フォーマット種別が表示されます。
	totalSizeInMB	総容量が表示されます。
	usedSizeInMB	使用領域が表示されます。
	freeSizeInMB	空き領域が表示されます。

関連コマンド

- 2.9 GetHost (gethost)

関連項目

- A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式
- A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式

2.14 GetHostIPNetwork (getip)

管理対象ホストに関する LAN の詳細情報を取得します。

構文

```
csm {GetHostIPNetwork | getip} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	LAN の詳細情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	管理対象ホストの LAN のうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行に LAN の数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動

- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

ホスト (HostSystem1) の LAN の詳細情報を表示します。

```
Client1>csm GetHostIPNetwork hostname=HostSystem1
IpAddress Instance
  hostname: HostSystem1
  adapterName: Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection
  adapterType: port
  ipAddress: 172.17.79.48
  subnetMask: 255.255.255.0
  networkAddress: 172.17.79.0
  macAddress: 00:50:56:92:00:59
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を `-format` オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
IpAddress	hostname	ホスト名が表示されます。
	adapterName	アダプター名称が表示されます。
	adapterType	アダプター種別が表示されます。
	ipAddress	IP アドレスが表示されます。
	subnetMask	サブネットマスクが表示されます。
	networkAddress	ネットワークアドレスが表示されます。
	macAddress	MAC アドレスが表示されます。

関連コマンド

- [2.9 GetHost \(gethost\)](#)
- [2.12 GetHostFCNetwork \(getfc\)](#)

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式](#)

2.15 GetHostMemory (getmemory)

管理対象ホストに関するメモリーの詳細情報を取得します。

構文

```
csm {GetHostMemory | getmemory} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	メモリーの詳細情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	管理対象ホストのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1行に管理対象ホストの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

ホスト (HostSystem1) のメモリーの詳細情報を表示します。

```
Client1>csm GetHostMemory hostname=HostSystem1
Memory Instance
  hostName: HostSystem1
  totalSizeInMB: 3.4
  maxPageFileSizeInMB: 1.9
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を -format オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
Memory	hostName	ホスト名が表示されます。
	totalSizeInMB	総容量が表示されます。
	maxPageFileSizeInMB	ページングファイルサイズが表示されます。

関連コマンド

- 2.9 GetHost (gethost)

関連項目

- A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式
- A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式

2.16 GetHostOs (getos)

管理対象ホストに関する OS 情報を取得します。

構文

```
csm {GetHostOs | getos} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	OS 情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	管理対象ホストのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行に管理対象ホストの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

ホスト (HostSystem1) の OS 情報を表示します。

```
Client1>csm GetHostOs hostname=HostSystem1
OS Instance
  hostName: HostSystem1
  uuid: 1E870542-5C8A-9DB3-670F-5D8F02A64F17
  osName: Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
  servicePackVersion: 0
  osVersion: 6.1.7600
  domainName: gse.hds.com
  description:
  lastReboot: 2011-10-03 19:36:17
  smt: Disable
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を `-format` オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
OS	hostName	ホスト名が表示されます。
	uuid	UUID が表示されます。
	osName	OS 名が表示されます。
	servicePackVersion	サービスパックバージョンが表示されます。
	osVersion	OS バージョンが表示されます。
	domainName	ドメイン名が表示されます。
	description	OS の説明が表示されます。
	lastReboot	直近のブート日時が表示されます。
smt	SMT の使用可否が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• Enable : 使用できます。• Disable : 使用できません。 情報が取得できなかった場合は空白が表示されます。	

関連コマンド

- [2.9 GetHost \(gethost\)](#)

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式](#)

2.17 GetHostPCI (getpci)

管理対象ホストに関する PCI デバイスの詳細情報を取得します。

構文

```
csm {GetHostPCI | getpci} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	PCI デバイスの詳細情報を取得するホストの名称を指定します。 hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。

オプションまたはパラメーター	説明
-count	管理対象ホストの PCI デバイスのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行に PCI デバイスの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

すべての管理対象ホストの PCI デバイス数を表示します。

```
Client1>csm GetHostPCI -count
82
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を -format オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
PCI	hostName	ホスト名が表示されます。
	deviceID	デバイス ID が表示されます。
	deviceName	デバイス名が表示されます。
	manufacturer	ベンダーが表示されます。

関連コマンド

- [2.9 GetHost \(gethost\)](#)

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式](#)

2.18 GetHostRemoteManagement (getrmtgmt)

BMC が設定された、管理対象ホストのデバイス情報を取得します。

このコマンドの実行結果に表示される"LOM"という文字列は、BMC を指します。

構文

```
csm {GetHostRemoteManagement | getrmtgmt} [hostname=<ホスト名>] [-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
hostname	デバイス情報を取得する、BMC が設定されたホストの名称を指定します。hostname を指定しない場合は、すべての管理対象ホストが対象となります。
-count	BMC が設定された管理対象ホストのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行に BMC が設定された管理対象ホストの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

BMC が設定された、すべての管理対象ホストのデバイスの詳細情報を表示します。

```
Client1>csm GetHostRemoteManagement
LOMSetting Instance
  hostName: HostSystem2
  ipAddress: 192.168.0.102
  credentialName: IPMICredential-1
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を-format オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
LOMSetting	hostName	ホスト名が表示されます。
	ipAddress	IP アドレスが表示されます。
	credentialName	認証情報名が表示されます。

関連コマンド

- 2.9 GetHost (gethost)

関連項目

- A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式
- A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式

2.19 GetBlade (getblade)

管理対象ブレードに関する情報を取得します。

構文

```

csm {GetBlade | getblade}
[svpAddr=<ブレード搭載シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス> [slotNo=<ブレード搭載スロット番号>]]
[-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]

```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
svpAddr	情報を取得するブレードが搭載されているシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレスを指定します。指定できる IP アドレスは IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。 svpAddr を指定しない場合は、すべての管理対象ブレードが対象となります。
slotNo	情報を取得するブレードが搭載されているスロット番号を指定します。 slotNo を指定する場合は、必ず svpAddr を指定してください。 slotNo を指定しない場合は、特定のシャーシに搭載されている、すべてのブレードの情報を取得できます。ただし、シャーシに対するロールを持たない場合は、取得できません。
-count	管理対象ブレードのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行に管理対象ホストの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。 -format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に確認しておく情報

- ・ ブレードが搭載されたシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス
シャーシを探索した時に使用した形式の IP アドレスを確認してください。IPv6 で探索した場合には IPv6 アドレスを、IPv4 で探索した場合には IPv4 アドレスを指定する必要があります。
- ・ ブレードが搭載されているスロット番号

事前に完了しておく操作

- ・ 管理サーバの起動
- ・ `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

マネジメントモジュールの IP アドレスが「192.168.12.70」のシャーシの、スロット番号 0 に搭載されているブレードの情報を、表示します。

```
Client1>csm GetBlade svpAddr=192.168.12.70 slotNo=0
Blade Instance
  serverName: BladeSymphony 540AA1
  slotNumber: 0,1
  chassisName: BS500#PFse
  hostName:
  powerStatus: OFF
  healthStatus: NORMAL
  maintenanceMode: OFF
  error: 0
  warning: 0
  information: 0
  lastRefreshed: 2015-11-26 14:00:18
  manufacturer: HITACHI
  modelNumber: GGAGD0A1-TNNN54Z
  serialNumber: 323SHDFFFFFF-Z999FFF00000003
  uuid: d7ebfa50-036e-11e2-8eed-ee445d83b549
  lidStatus: OFF
  powerOnSuppressStatus: Disable
  npmColdStandby: Disable
  npmGroup:
  npmAssignment:
  initializationStatus: Initialized
  logicalPartitioning: Disable
  configurationStatus: No Information
  macType: Default
  wwnType: Default
  serverFirmwareVersion: 03-34
  lomFirmwareVersion: 03-21
  efiFirmwareVersion: 04-42
  lparManagerFirmwareVersion:
  updateFirmwarePendingRestart: -
  lomIpAddress: 192.168.12.80
  lomSubnetMask: 255.255.255.0
  lomDefaultGateway: 192.168.12.1
  lomIpv6IpAddress: fd00:4843:536d:c::50
  lomNetworkPrefix: 64
  lomIpv6DefaultGateway: fd00:4843:536d:c::1
  svpIpAddress: 192.168.12.70
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を-format オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
Blade	serverName	サーバ名が表示されます。
	slotNumber	ブレードが搭載されているスロット番号が表示されます。 サーバを構成するブレードが挿入されているすべてのスロットの番号がコンマ区切りで列挙されます。
	chassisName	シャーシ名が表示されます。 シャーシに対するロールを持たない場合は、空文字列が表示されます。
	hostName	ホスト名が表示されます。 ホストに対するロールを持たない場合は、空文字列が表示されます。
	powerStatus	サーバの電源状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ON：サーバが起動していることを示します。 OFF：サーバが停止していることを示します。 UNCONNECTED：マネジメントモジュールとの通信に失敗したため、状態不明であることを示します。 NO_INFORMATION：状態未取得であることを示します。
	healthStatus	サーバの稼働状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> NORMAL：正常であることを示します。 WARNING：警告状態となっていることを示します。 FAIL：障害状態となっていることを示します。 NO_INFORMATION：稼働状態未取得であることを示します。
	maintenanceMode	サーバが保守モードかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> ON：保守モードに設定されていることを示します。 OFF：保守モードに設定されていないことを示します。
	error	障害アラート数が表示されます。
	warning	警告アラート数が表示されます。
	information	情報アラート数が表示されます。
	lastRefreshed	最終更新日時が表示されます。
	manufacturer	ベンダーが表示されます。
	modelName	製品番号が表示されます。
	serialNumber	シリアル番号が表示されます。
uuid	UUID が表示されます。	
lidStatus	LID の状態が表示されます。	

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
		<ul style="list-style-type: none"> ON : LID が点灯していることを示します。 OFF : LID が消灯していることを示します。 UNKNOWN : 状態不明であることを示します。 NOT_SUPPORTED : サポートされていないことを示します。
	powerOnSuppressStatus	<p>電源 ON 抑止の状態が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Enable : 有効。サーバブレードの電源 ON が抑止されていることを示します。 Disable : 無効。電源 ON 抑止の状態ではないことを示します。
	npmColdStandby	<p>N+M コールドスタンバイグループの現用ブレードまたは予備ブレードとして使用できるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Enable : N+M コールドスタンバイグループの現用ブレードまたは予備ブレードとして使用できます。 Disable : N+M コールドスタンバイグループの現用ブレードまたは予備ブレードとして使用できません。
	npmGroup	<p>N+M コールドスタンバイのグループ名が表示されます。N+M コールドスタンバイグループに登録されていない場合、この値は空文字列になります。</p>
	npmAssignment	<p>N+M コールドスタンバイグループの現用ブレードまたは予備ブレードを示します。N+M コールドスタンバイグループに登録されていない場合、この値は空文字列になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Active : N+M コールドスタンバイグループの現用ブレードに登録されていることを示します。 Standby : N+M コールドスタンバイグループの予備ブレードに登録されていることを示します。
	initializationStatus	<p>ブレードの初期化状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Initialized : 初期化が正常に終了したことを示します。 Not initialized : 初期化されていないことを示します。 Failed : 初期化が失敗したことを示します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
		<ul style="list-style-type: none"> Executing : 初期化中であることを示します。
	logicalPartitioning	<p>サーバブレードの動作モードが HVM モードか Basic モードかを示します。 設定されていない場合、空文字列が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Enable : HVM モード。HVM を使用するモードであることを示します。 Disable : Basic モード。HVM を使用しないモードであることを示します。
	configurationStatus	<p>Pre-configure 状態が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> No Information : Pre-configure を実行していないことを示します。 In Progress : Pre-configure が手動または自動で実行されていることを示します。 Configured : Pre-configure の実行が完了していることを示します。 Not Configured : N+M コールドスタンバイの切り替えまたは復帰が発生したが、切り替え先、または復帰先のサーバブレードがまだ起動していない状態であることを示します。
	macType	<p>MAC アドレスの種類が表示されます。 設定されていない場合、空文字列が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Default : Original MAC アドレスであることを示します。 Optional : Additional MAC アドレスであることを示します。
	wwnType	<p>WWN の種類が表示されます。 設定されていない場合、空文字列が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Default : Original WWN であることを示します。 Optional : Additional WWN であることを示します。
	serverFirmwareVersion	動作中のファームウェアのバージョンが表示されます。
	lomFirmwareVersion	動作中の BMC のバージョンが表示されます。
	efiFirmwareVersion	動作中の EFI のバージョンが表示されます。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
	lparManagerFirmwareVersion	HVM のファームウェアバージョンが表示されます。設定されていない場合、空文字列が表示されます。
	updateFirmwarePendingRestart	ファームウェアの更新を反映するために、ブレードを再起動する必要があるかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Pending : ブレードを再起動する必要があります。 • - : 更新したファームウェアはすでに反映されています。
	lomIpAddress	BMC の IPv4 アドレスが表示されます。設定されていない場合、空文字列が表示されます。
	lomSubnetMask	BMC のサブネットマスクの IPv4 アドレスが表示されます。設定されていない場合、空文字列が表示されます。
	lomDefaultGateway	BMC のデフォルトゲートウェイの IPv4 アドレスが表示されます。設定されていない場合、空文字列が表示されます。
	lomIpv6IpAddress	BMC の IPv6 アドレスが表示されます。設定されていない場合、空文字列が表示されます。
	lomNetworkPrefix	BMC のプレフィックス長が表示されます。設定されていない場合、空文字列が表示されます。
	lomIpv6DefaultGateway	BMC のデフォルトゲートウェイの IPv6 アドレスが表示されます。設定されていない場合、空文字列が表示されます。
	svpIpAddress	シャーシの管理モジュールの IP アドレスが表示されます。表示される IP アドレスは IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。シャーシに対するロールを持たない場合でも表示されます。

関連コマンド

- [2.20 GetChassis \(getchassis\)](#)

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式](#)

2.20 GetChassis (getchassis)

管理対象シャーシに関するサマリー情報を取得します。

構文

```
csm {GetChassis | getchassis}
[svpAddr=<シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス>]
[-count | -describe] [-format {csv | csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
svpAddr	シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレスを指定します。指定できる IP アドレスは IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。 svpAddr を指定しない場合は、すべての管理対象シャーシが対象となります。
-count	管理対象シャーシのうち、条件に一致する数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行に管理対象ホストの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。 -format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に確認しておく情報

- シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス
シャーシを探索した時に使用した形式の IP アドレスを確認してください。IPv6 で探索した場合には IPv6 アドレスを、IPv4 で探索した場合には IPv4 アドレスを指定する必要があります。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

マネジメントモジュールの IP アドレスが「192.168.12.70」のシャーシのサマリー情報を表示します。

```
Client1>csm GetChassis svpAddr=192.168.12.70
Chassis Instance
  chassisName: BS500#PFse
  chassisType: BladeSymphony BS500
  modelNumber: GG-RE3A1TBN1
  serialNumber: 00123456789ABCDEFGHIJKLMNPO
  powerStatus: ON
  healthStatus: NORMAL
  lidStatus: OFF
  maintenanceMode: OFF
  error: 0
  warning: 0
```

```

information: 0
lastRefreshed: 2015-11-26 14:00:18
svpIpAddress: 192.168.12.70
svpSubnetMask: 255.255.255.0
svpNetworkPrefix:
svpDefaultGateway: 0.0.0.0

```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を `-format` オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
Chassis	chassisName	サマリー情報を取得するシャーシの名称が表示されます。
	chassisType	シャーシ種別が表示されます。
	modelName	シャーシの型名が表示されます。
	serialNumber	シャーシのシリアル番号が表示されます。
	powerStatus	<p>マネジメントモジュール経由で確認したシャーシの状態が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON: シャーシが起動していることを示します。 UNCONNECTED: マネジメントモジュールとの通信に失敗したため、状態不明であることを示します。
	healthStatus	<p>シャーシの稼働状態が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> NORMAL: 正常であることを示します。 WARNING: 警告状態となっていることを示します。 FAIL: 障害状態となっていることを示します。 UNKNOWN: 状態不明であることを示します。
	lidStatus	<p>LID の状態が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ON: LID が点灯していることを示します。 OFF: LID が消灯していることを示します。 UNKNOWN: 状態不明であることを示します。 NOT_SUPPORTED: サポートされていないことを示します。
	maintenanceMode	シャーシが保守モードかどうかを示します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
		<ul style="list-style-type: none"> ON: 保守モードに設定されていることを示します。 OFF: 保守モードに設定されていないことを示します。
	error	障害アラート数が表示されます。
	warning	警告アラート数が表示されます。
	information	情報アラート数が表示されます。
	lastRefreshed	最終更新日時が表示されます。
	svpIpAddress	シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレスが表示されます。表示される IP アドレスは IPv4 アドレス, または IPv6 アドレスです。
	svpNetMask	マネジメントモジュールのサブネットマスクの IPv4 アドレスが表示されます。IPv6 アドレスの場合, 空文字列が表示されます。
	svpNetPrefix	マネジメントモジュールのプレフィックス長が表示されます。IPv4 アドレスの場合, 空文字列が表示されます。
	svpDefaultGateway	マネジメントモジュールのデフォルトゲートウェイアドレスが表示されます。設定されていない場合, 空文字列が表示されます。

関連コマンド

- 2.19 GetBlade (getblade)

関連項目

- A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式
- A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式

2.21 GetTaskInfo (gettaskinfo)

次の情報を取得します。

- GUI で登録されたすべてのタスクに関する情報
- CLI で登録されたすべてのタスクに関する情報
- 名称または ID で指定した特定のタスクに関する情報
- 特定の状態のタスクに関する情報

name, status, type パラメーターを指定しないで **GetTaskInfo** コマンドを実行すると, 状態が In Progress, かつ CLI で登録されたすべてのタスクに関する情報が表示されます。

タスクの詳細については, マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

構文

```
csm {GetTaskInfo | gettaskinfo} [id=<タスク ID > | name=<タスク名 > |  
status={In Progress | InProgress | Waiting | Cancelled | Completed |  
Failed | All}] [type={cli | gui}] [-count | -describe] [-format {csv |  
csv-no-header | xml}]
```

オプションまたはパラメーター

オプションまたはパラメーター	説明
id	現在のタスクに関する情報を取得するタスクの ID を指定します。 id は、name および status と同時に指定できません。
name	現在のタスクに関する情報を取得するタスクの名称を指定します。 name は、id および status と同時に指定できません。
status	指定した状態のタスクに関する情報を表示します。status には次のどれかを指定できます。指定する値は、大文字と小文字が区別されます。 <ul style="list-style-type: none">• In Progress (または InProgress)• Waiting• Cancelled• Completed• Failed• All status を指定しない場合は、実行中 (In Progress) 状態のタスクに関する情報が表示されます。 status は、id および name と同時に指定できません。
type	タスクが登録された管理クライアントの種別 (cli または gui) を指定します。 type を指定しない場合は、CLI で登録されたタスクに関する情報が表示されます。
-count	タスクの数だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、1 行にタスクの数だけが表示されます。 -count は、-describe と同時に指定できません。
-describe	各属性の情報だけを表示する場合に指定します。 -format の指定に沿った形式で表示されます。 -format を指定しない場合は、各属性の情報がテキストで表示されます。 -describe は、-count と同時に指定できません。
-format	表示する出力形式を指定します。-format には、csv、csv-no-header (ヘッダーなし CSV)、または xml のどれかを指定できます。 -format を指定しない場合は、タブ区切りテキストとして表示されます。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- **login** コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

「Reboot OS-3」という名称のタスクに関する情報を表示します。

```
Client1>csm GetTaskInfo name="Reboot OS-3"  
TaskExecutionInfo Instance  
  taskID: 400000000001538  
  taskName: Power On-1  
  status: Waiting
```

戻り値

値	意味
0	成功
1	失敗

出力項目

次に示す項目を-format オプションの指定に従った形式に出力します。

出力項目		説明
大項目名	小項目名	
TaskExecutionInfo	taskID	タスク ID が表示されます。
	taskName	タスク名が表示されます。
	status	タスクのステータスが表示され ます。

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式](#)

2.22 PowerOFF (poweroff)

管理対象ホストをシャットダウンしないで電源を OFF にするタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {PowerOFF | poweroff} ipaddress=<IP アドレス>[, <IP アドレス>...]  
[elapsedTime=<タイムアウト時間>]  
[notification={send | not_send | send_only_failed}] [schedule={Now |  
Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
ipaddress	電源を OFF にするホストの IP アドレスを指定します。複数のホストの電源を OFF にする場合、一連の IP アドレスをコンマ (,) で区切って指定します。少なくとも 1 つの IP アドレスを指定する必要があります。
elapsedTime	1 つのホストに対して、電源が OFF になるまでのタイムアウト時間を指定します。0 から 9,999 (単位: 秒) の値を指定できます。0 を指定した場合、または省略した場合は、デフォルトの値が設定されます。デフォルトの値は GUI で設定されたタイムアウト時間です。
notification	E メール通知の方法を指定します。notification には次のどれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• send : E メール通知あり• not_send : E メール通知なし• send_only_failed : タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は not_send です。

パラメーター	説明
schedule	ホストの電源を OFF にするスケジュールを指定します。schedule には次のどちらかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> Now : 即時開始 Later : date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。
date	ホストの電源を OFF にする日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合、date は必須です。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

2011年9月21日の12:05:05に、IPアドレスが「172.168.34.21」のホストの電源をOFFにするタスクを登録します。

```
Client1>csm PowerOFF ipaddress=172.168.34.21 schedule=Later
date="2011/09/21 12:05:05"
4000000000001500
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

関連コマンド

- [2.9 GetHost \(gethost\)](#)
- [2.24 PowerON \(poweron\)](#)
- [2.26 RebootOS \(rebootos\)](#)
- [2.27 ShutdownOS \(shutdownos\)](#)

2.23 PowerOFFServer (poweroffserver)

稼働している OS をシャットダウンしないで、管理対象ブレードの電源を OFF にするタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {PowerOFFServer | poweroffserver}
  svpAddr=<ブレード搭載シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス>
  slotNo=<ブレード搭載スロット番号>
  [elapsedTime=<タイムアウト時間>] [notification={send | not_send |
send_only_failed}]
  [schedule={Now | Later date="< YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
svpAddr	強制電源 OFF するブレードが搭載されているシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレスを指定します。指定できる IP アドレスは IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。
slotNo	強制電源 OFF するブレードのスロット番号を指定します。
elapsedTime	強制電源 OFF するまでのタイムアウト時間です。0 から 9,999(単位:秒)の値を指定できます。 0 を指定した場合、または省略した場合は、デフォルトの値が設定されます。 デフォルトの値は GUI で設定されたタイムアウト時間です。
notification	E メール通知の方法を指定します。 notification には次のどれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> send : E メール通知あり not_send : E メール通知なし send_only_failed : タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は not_send です。
schedule	ブレードを強制電源 OFF にするスケジュールを指定します。 schedule には次のどちらかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> Now : 即時開始 Later : date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。
date	ブレードを強制電源 OFF にする日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合、date は必須です。

事前に確認しておく情報

- ブレードが搭載されたシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス
シャーシを探索した時に使用した形式の IP アドレスを確認してください。IPv6 で探索した場合には IPv6 アドレスを、IPv4 で探索した場合には IPv4 アドレスを指定する必要があります。
- ブレードが搭載されているスロット番号

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

2015 年 12 月 31 日の 12:30:00 に、マネジメントモジュールの IP アドレスが「1.1.1.1」のシャーシの、スロット番号 0 に搭載されているブレードを、強制電源 OFF するタスクを登録します。強制電源 OFF までのタイムアウト時間を 300 秒に設定し、強制電源 OFF の実施結果を E メール通知します。

```
Client1>csm PowerOFFServer svpAddr=1.1.1.1 slotNo=0 elapsedTime=300
schedule=Later date="2015/12/31 12:30:00" notification=send
400000000006236
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。

値	意味
1	タスクの登録に失敗した。

関連コマンド

- 2.19 GetBlade (getblade)
- 2.25 PowerONServer (poweronserver)

2.24 PowerON (poweron)

管理対象ホストの電源を ON にするタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {PowerON | poweron} ipaddress=<IP アドレス>[, <IP アドレス>...]
[elapseTime=<タイムアウト時間>]
[notification={send | not_send | send_only_failed}] [schedule={Now |
Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
ipaddress	電源を ON にするホストの IP アドレスを指定します。複数のホストの電源を ON にする場合、一連の IP アドレスをコンマ (,) で区切って指定します。少なくとも 1 つの IP アドレスを指定する必要があります。
elapseTime	1 つのホストに対して、電源が ON になるまでのタイムアウト時間を指定します。0 から 9,999 (単位: 秒) の値を指定できます。0 を指定した場合、または省略した場合は、デフォルトの値が設定されます。デフォルトの値は GUI で設定されたタイムアウト時間です。
notification	E メール通知の方法を指定します。notification には次のどれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • send: E メール通知あり • not_send: E メール通知なし • send_only_failed: タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は not_send です。
schedule	ホストの電源を ON にするスケジュールを指定します。schedule には次のどちらかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Now: 即時開始 • Later: date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。デフォルトの値は Now です。
date	ホストの電源を ON にする日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。schedule に Later を指定する場合、date は必須です。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

2011年9月21日の12:05:05に、IPアドレスが「172.168.34.21」のホストの電源をONにするタスクを登録します。

```
Client1>csm PowerON ipaddress=172.168.34.21 schedule=Later
date="2011/09/21 12:05:05"
400000000002000
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

関連コマンド

- 2.9 GetHost (gethost)
- 2.22 PowerOFF (poweroff)
- 2.26 RebootOS (rebootos)
- 2.27 ShutdownOS (shutdownos)

2.25 PowerONServer (poweronserver)

管理対象ブレードの電源をONにするタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスクIDを表示します。

構文

```
csm {PowerONServer | poweronserver}
svpAddr=<ブレード搭載シャーシのマネジメントモジュールのIPアドレス>
slotNo=<ブレード搭載スロット番号> [elapsedTime=<タイムアウト時間>]
[notification={send | not_send | send_only_failed}] [schedule={Now |
Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
[verifyLpm={no | yes [lpmElapsedTime=<HVMが起動するまでのタイムアウト時間>]}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
svpAddr	電源をONにするブレードが搭載されているシャーシのマネジメントモジュールのIPアドレスを指定します。指定できるIPアドレスはIPv4アドレス、またはIPv6アドレスです。
slotNo	電源をONにするブレードのスロット番号を指定します。
elapsedTime	電源がONになるまでのタイムアウト時間です。0から9,999(単位:秒)の値を指定できません。0を指定した場合、または省略した場合は、デフォルトの値が設定されます。デフォルトの値はGUIで設定されたタイムアウト時間です。
notification	Eメール通知の方法を指定します。notificationには次のどれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• send: Eメール通知あり• not_send: Eメール通知なし• send_only_failed: タスク失敗時だけEメール通知あり デフォルトの値はnot_sendです。
schedule	電源をONにするスケジュールを指定します。

パラメーター	説明
	<p>schedule には次のどちらかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Now : 即時開始 • Later : date で指定した日時に開始 <p>Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。</p>
date	<p>ブレードの電源を ON にする日付と時刻を YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合は、date は必須です。</p>
verifyLpm	<p>HVM の起動確認を行うかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • yes : 起動確認を行う • no : 起動確認を行わない <p>デフォルトの値は yes です。</p>
lpmElapsedTime	<p>HVM が起動するまでのタイムアウト時間を指定します。0 から 9,999(単位 : 秒)の値を指定できます。 0 を指定した場合、または省略した場合は、デフォルトの値が設定されます。 デフォルトの値は GUI で設定されたタイムアウト時間です。 lpmElapsedTime を指定する場合は、verifyLpm を yes に指定する必要があります。</p>

事前に確認しておく情報

- シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス
シャーシを探索した時に使用した形式の IP アドレスを確認してください。IPv6 で探索した場合には IPv6 アドレスを、IPv4 で探索した場合には IPv4 アドレスを指定する必要があります。
- ブレードが搭載されているスロット番号

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- **login** コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

2015 年 12 月 31 日の 12:30:00 に、マネジメントモジュールの IP アドレス「1.1.1.1」のシャーシの、スロット番号 0 に搭載されているブレードの電源を、ON にするタスクを登録します。電源 ON までのタイムアウト時間を 600 秒に設定し、電源 ON の実施結果を E メール通知します。

```
Client1>csm PowerONServer svpAddr=1.1.1.1 slotNo=0 elapseTime=600
schedule=Later date="2015/12/31 12:30:00" notification=send
400000000006230
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

関連コマンド

- 2.19 GetBlade (getblade)
- 2.23 PowerOFFServer (poweroffserver)

2.26 RebootOS (rebootos)

管理対象ホストをリブートするタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {RebootOS | rebootos} ipaddress=<IP アドレス>[, <IP アドレス>...]  
[elapseTime=<タイムアウト時間>]  
[notification={send | not_send | send_only_failed}] [schedule={Now |  
Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
ipaddress	リブートするホストの IP アドレスを指定します。複数のホストをリブートする場合、一連の IP アドレスをコンマ (,) で区切って指定します。少なくとも 1 つの IP アドレスを指定する必要があります。
elapseTime	1 つのホストに対して、リブートするまでのタイムアウト時間を指定します。0 から 9,999 (単位: 秒) の値を指定できます。0 を指定した場合、または省略した場合は、デフォルトの値が設定されます。デフォルトの値は GUI で設定されたタイムアウト時間です。
notification	E メール通知の方法を指定します。notification には次のどれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">send: E メール通知ありnot_send: E メール通知なしsend_only_failed: タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は not_send です。
schedule	ホストをリブートするスケジュールを指定します。schedule には次のどちらかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">Now: 即時開始Later: date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。デフォルトの値は Now です。
date	ホストをリブートする日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。schedule に Later を指定する場合、date は必須です。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

2011 年 9 月 21 日の 12:05:05 に、IP アドレスが「172.168.34.21」のホストをリブートするタスクを登録します。

```
Client1>csm RebootOS ipaddress=172.168.34.21 schedule=Later  
date="2011/09/21 12:05:05"  
400000000002500
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

関連コマンド

- 2.9 GetHost (gethost)
- 2.22 PowerOFF (poweroff)
- 2.24 PowerON (poweron)
- 2.27 ShutdownOS (shutdownos)

2.27 ShutdownOS (shutdownos)

管理対象ホストをシャットダウンするタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {ShutdownOS | shutdownos} ipaddress=<IP アドレス> [, <IP アドレス> ...]  
[elapsedTime=<タイムアウト時間>]  
[notification={send | not_send | send_only_failed}] [schedule={Now |  
Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
ipaddress	シャットダウンするホストの IP アドレスを指定します。複数のホストをシャットダウンする場合、一連の IP アドレスをコンマ (,) で区切って指定します。少なくとも 1 つの IP アドレスを指定する必要があります。
elapsedTime	1 つのホストに対して、シャットダウンするまでのタイムアウト時間を指定します。0 から 9,999 (単位: 秒) の値を指定できます。0 を指定した場合、または省略した場合は、デフォルトの値が設定されます。デフォルトの値は GUI で設定されたタイムアウト時間です。
notification	E メール通知の方法を指定します。notification には次のどれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• send: E メール通知あり• not_send: E メール通知なし• send_only_failed: タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は not_send です。
schedule	ホストをシャットダウンするスケジュールを指定します。schedule には次のどちらかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• Now: 即時開始• Later: date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。デフォルトの値は Now です。
date	ホストをシャットダウンする日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「'''」で囲む必要があります。schedule に Later を指定する場合、date は必須です。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

2011年9月21日の12:05:05に、IPアドレスが「172.168.34.21」のホストをシャットダウンするタスクを登録します。

```
Client1>csm ShutdownOS ipaddress=172.168.34.21 schedule=Later
date="2011/09/21 12:05:05"
400000000003000
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

関連コマンド

- 2.9 GetHost (gethost)
- 2.22 PowerOFF (poweroff)
- 2.24 PowerON (poweron)
- 2.26 RebootOS (rebootos)

2.28 NpmFailover (npmfailover)

指定した N+M コールドスタンバイグループにある現用ブレードを指定して、予備ブレードに切り替えるタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {NpmFailover | npmfailover} groupName=<N+M コールドスタンバイグループ名>
activeSvpAddr=<現用ブレード搭載シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス>
activeSlotNo=<現用ブレード搭載スロット番号>
[standbySvpAddr=<予備ブレード搭載シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス>
standbySlotNo=<予備ブレード搭載スロット番号>]
[powerStatusAfterFailover={on | off}]
[schedule={Now | Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
[notification={send | not_send | send_only_failed}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
groupName	操作対象の N+M コールドスタンバイグループ名を指定します。
activeSvpAddr	現用ブレードが搭載されているシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレスを指定します。指定できる IP アドレスは IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。
activeSlotNo	現用ブレードが搭載されているスロット番号を指定します。
standbySvpAddr	予備ブレードが搭載されているシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレスを指定します。指定できる IP アドレスは IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。

パラメーター	説明
	standbySvpAddr と standbySlotNo を指定すると、指定した予備ブレードに切り替えるタスクが登録されます。 standbySvpAddr と standbySlotNo を省略した場合は、現用ブレードと同じ N+M コールドスタンバイグループにある予備ブレードを自動的に選択して切り替えるタスクが登録されます。
standbySlotNo	予備ブレードが搭載されているスロット番号を指定します。 standbySvpAddr と standbySlotNo を指定すると、指定した予備ブレードに切り替えるタスクが登録されます。 standbySvpAddr と standbySlotNo を省略した場合は、現用ブレードと同じ N+M コールドスタンバイグループにある予備ブレードを自動的に選択して切り替えるタスクが登録されます。
powerStatusAfterFailover	切り替え完了時に予備ブレードの電源状態をどのように制御するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> on : 電源 ON off : 電源 OFF デフォルトの値は on です。 standbySvpAddr および standbySlotNo で予備ブレードが指定されなかった場合、powerStatusAfterFailover の指定は無視されます。
schedule	切り替えを開始するスケジュールを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> Now : 即時開始 Later : date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。 standbySvpAddr および standbySlotNo で予備ブレードが指定されなかった場合、schedule の指定は無視され、即時に開始されます。
date	切り替えを開始する日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合は、date は必須です。 standbySvpAddr および standbySlotNo で予備ブレードが指定されなかった場合、date の指定は無視され、即時に開始されます。
notification	E メール通知の方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> send : E メール通知あり not_send : E メール通知なし send_only_failed : タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は send です。

事前に確認しておく情報

- N+M コールドスタンバイグループ名
GUI で [N+M コールドスタンバイグループ一覧画面] を確認してください。
- 現用ブレード、および予備ブレードが搭載されたシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス
シャーシを探索した時に使用した形式の IP アドレスを確認してください。IPv6 で探索した場合には IPv6 アドレスを、IPv4 で探索した場合には IPv4 アドレスを指定する必要があります。IP アドレスは、GUI で各シャーシの [マネジメントモジュール] タブから [IP アドレス] タブの詳細画面を確認してください。
- 現用ブレード、および予備ブレードが搭載されているスロット番号
GUI で各 N+M コールドスタンバイグループのグループ名から [現用ブレード] タブまたは [予備ブレード] タブの詳細画面を確認してください。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

2015年7月18日の10:30:00に、マネジメントモジュールのIPアドレスが「192.168.163.222」のシャーシのスロット番号0に搭載されている現用ブレードを、同じシャーシのスロット番号1に搭載されている予備ブレードに切り替えるタスクを登録します。

```
Client1>csm NpmFailover groupName=NpmGroup-001
activeSvpAddr=192.168.163.222 activeSlotNo=0
standbySvpAddr=192.168.163.222 standbySlotNo=1
powerStatusAfterFailover=on schedule=Later date="2015/07/18 10:30:00"
notification=send
4000000000006000
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

注意事項

コマンド実行時に、指定した現用ブレードと予備ブレードでHVMファームウェア不一致などの問題がある場合でも、警告を表示しないで現用ブレードを予備ブレードに切り替えるタスクを登録します。登録されたタスクは警告の有無に関係なく実行されます。

登録したタスクの詳細をGUIで参照すると、[切り替えタイプ]には[自動]リンクが表示されますが、[自動]リンクから参照できるアラートの詳細はアラートを契機とした切り替えが行われた場合と異なり、すべて空欄となります。

関連コマンド

- [2.29 NpmFailback \(npmfailback\)](#)
- [2.30 NpmReassign \(npmreassign\)](#)

2.29 NpmFailback (npmfailback)

指定したN+M コールドスタンバイグループにある切り替え済みの予備ブレードから、指定した現用ブレードに切り戻すタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスクIDを表示します。

構文

```
csm {NpmFailback | npmfailback} groupName=<N+M コールドスタンバイグループ名>
activeSvpAddr=<現用ブレード搭載シャーシのマネジメントモジュールのIPアドレス>
activeSlotNo=<現用ブレード搭載スロット番号>
[powerStatusAfterFailback={on | off}]
[schedule={Now | Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
[notification={send | not_send | send_only_failed}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
groupName	操作対象の N+M コールドスタンバイグループ名を指定します。
activeSvpAddr	現用ブレードが搭載されているシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレスを指定します。指定できる IP アドレスは IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。
activeSlotNo	現用ブレードが搭載されているスロット番号を指定します。
powerStatusAfterFailback	切り戻し完了時に現用ブレードの電源状態をどのように制御するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> on : 電源 ON off : 電源 OFF デフォルトの値は on です。
schedule	切り戻しを開始するスケジュールを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> Now : 即時開始 Later : date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。
date	切り戻しを開始する日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合は、date は必須です。
notification	E メール通知の方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> send : E メール通知あり not_send : E メール通知なし send_only_failed : タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は send です。

事前に確認しておく情報

- N+M コールドスタンバイグループ名
 GUI の [N+M コールドスタンバイグループ一覧画面] を確認してください。
- 現用ブレードが搭載されているシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス
 シャーシを探索した時に使用した形式の IP アドレスを確認してください。IPv6 で探索した場合には IPv6 アドレスを、IPv4 で探索した場合には IPv4 アドレスを指定する必要があります。
 IP アドレスは、GUI の各シャーシの [マネジメントモジュール] タブから [IP アドレス] タブの詳細画面を確認してください。
- 現用ブレードが搭載されているスロット番号
 GUI の各 N+M コールドスタンバイグループのグループ名から [現用ブレード] タブの詳細画面を確認してください。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

2015 年 7 月 18 日の 10:30:00 に、マネジメントモジュールの IP アドレスが「192.168.163.222」のシャーシのスロット番号 0 に搭載されているブレードを、現用ブレードに切り戻すタスクを登録します。

```
Client1>csm NpmFailback groupName=NpmGroup-001
activeSvpAddr=192.168.163.222 activeSlotNo=0 powerStatusAfterFailback=on
schedule=Later date="2015/07/18 10:30:00" notification=send
400000000007000
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

注意事項

コマンド実行時に、指定した現用ブレードと予備ブレードで HVM ファームウェア不一致などの問題がある場合でも、警告を表示しないで予備ブレードから現用ブレードに切り戻すタスクを登録します。登録されたタスクは警告の有無に関係なく実行されます。

関連コマンド

- 2.28 NpmFailover (npmfailover)
- 2.30 NpmReassign (npmreassign)

2.30 NpmReassign (npmreassign)

指定した N+M コールドスタンバイグループにある切り替え済みの予備ブレードを指定して、現用ブレードに変更するタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {NpmReassign|npmreassign} groupName=<N+M コールドスタンバイグループ名>  
standbySvpAddr=<予備ブレード搭載シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス>  
standbySlotNo=<予備ブレード搭載スロット番号>
```

パラメーター

パラメーター	説明
groupName	操作対象の N+M コールドスタンバイグループ名を指定します。
standbySvpAddr	現用に変更する予備ブレードが搭載されているシャーシのマネジメントモジュールの IP アドレスを指定します。指定できる IP アドレスは IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスです。
standbySlotNo	現用に変更する予備ブレードが搭載されているスロット番号を指定します。

事前に確認しておく情報

- N+M コールドスタンバイグループ名
GUI の [N+M コールドスタンバイグループ一覧画面] を確認してください。
- シャーシのマネジメントモジュールの IP アドレス
シャーシを探索した時に使用した形式の IP アドレスを確認してください。IPv6 で探索した場合には IPv6 アドレスを、IPv4 で探索した場合には IPv4 アドレスを指定する必要があります。IP アドレスは、GUI の各シャーシの [マネジメントモジュール] タブから [IP アドレス] タブの詳細画面を確認してください。
- 現用に変更する予備ブレードが搭載されているスロット番号
GUI の各 N+M コールドスタンバイグループのグループ名から [現用ブレード] タブの詳細画面を確認してください。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

マネジメントモジュールの IP アドレスが「192.168.163.21」のシャーシのスロット番号 5 に搭載されている予備ブレードを現用ブレードに変更します。

```
Client1>csm NpmReassign groupName=NpmGroup-001
standbySvpAddr=192.168.163.21 standbySlotNo=5
400000000008000
```

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

関連コマンド

- [2.29 NpmFailback \(npmfailback\)](#)
- [2.28 NpmFailover \(npmfailover\)](#)

2.31 DpmBackup (dpmbackup)

指定した管理対象リソースのディスク全体、またはパーティションのバックアップイメージファイルを取得するタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {DpmBackup | dpmbackup} macAddr=<MAC アドレス>
diskNo=<ディスク番号> [partitionNo=<パーティション番号>]
[backupEntireDisk={enable | disable}]
backupFileName=<バックアップイメージファイル名>
[compressBackupData={enable | disable}]
[allowForcePowerOff={yes | no}] [powerStatusAfterTask={on | off | same}]
[schedule={Now | Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
[notification={send | not_send | send_only_failed}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
macAddr	バックアップする管理対象リソースの MAC アドレスを指定します。MAC アドレスの値は<XX:XX:XX:XX:XX:XX>の形式で指定してください。XX は 2 桁の 16 進数です。
diskNo	バックアップするディスク番号を指定します。1 から 1,000 の範囲の整数で指定してください。
partitionNo	バックアップするパーティション番号を指定します。1 から 1,000 の範囲の整数で指定してください。 デフォルトでは diskNo で指定したディスクの全パーティションをバックアップします。

パラメーター	説明
backupEntireDisk	diskNo で指定したディスクについて、ディスク上の全セクターをバックアップするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> enable: 未使用セクターを含む全セクターをバックアップする disable: 有効セクターだけをバックアップする デフォルトの値は disable です。 partitionNo を指定してパーティションをバックアップする場合、このパラメーターは無視されます。 全セクターの指定が必要なファイルシステムを含むディスクをバックアップする場合、必ず enable を指定してください。セクターの指定の詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。
backupFileName	管理サーバに保存するバックアップイメージファイル名を指定します。拡張子「.lbr」も含めた 128 バイト以内の絶対パスを指定してください。 ドライブ文字の「:」を除き、次の文字は使用できません。 /*?<>" :;
compressBackupData	バックアップイメージファイルを圧縮するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> enable: 圧縮する disable: 圧縮しない デフォルトの値は enable です。
allowForcePowerOff	バックアップする管理対象リソースの電源状態が ON だった場合に、管理対象リソースの電源を強制的に OFF にするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> yes: 許可する (電源を強制的に OFF にする) no: 許可しない (電源を強制的に OFF にしない) デフォルトの値は no です。
powerStatusAfterTask	バックアップ完了時に管理対象リソースの電源状態をどのように制御するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> on: 電源 ON にする off: 電源 OFF にする same: バックアップ実行前と同じ状態にする デフォルトの値は same です。
schedule	バックアップを開始するスケジュールを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> Now: 即時開始 Later: date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。
date	バックアップを開始する日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「'''」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合、date は必須です。
notification	E メール通知の方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> send: E メール通知あり not_send: E メール通知なし send_only_failed: タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は not_send です。

事前に確認しておく情報

- 操作する管理対象リソースの MAC アドレス
 管理対象リソースをデプロイメントマネージャーに追加した際に検出した MAC アドレスを確認してください。
- 操作する管理対象リソースのディスク構成
 OS 上で表示されるディスク番号やパーティション番号と、デプロイメントマネージャーが認識する番号が異なる場合があります。事前にデプロイメントマネージャーが認識する番号を確認することを推奨します。

MACアドレスは [デプロイメントリソース] 画面の一覧を、ディスク構成は操作する管理対象リソースのディスク構成情報を、それぞれ GUI で参照して確認してください。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- **login** コマンドによる管理サーバとのセッションの開始
- 操作する管理対象リソースの、デプロイメントマネージャーへの追加
- 操作する管理対象リソース上のホスト (OS) の管理対象への追加

管理対象リソースをデプロイメントマネージャーに追加する手順およびホストを管理対象に追加する手順については、マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

例

MACアドレスが「00:00:87:1A:2B:3C」の管理対象リソースを、ファイル名 E:¥csm-cli¥BK-2014-12-25.lbr を指定してバックアップするタスクを登録する例を示します。

```
Client1>csm DpmBackup macAddr=00:00:87:1A:2B:3C diskNo=1 partitionNo=2
backupFileName=E:¥csm-cli¥BK-2014-12-25.lbr powerStatusAfterTask=on
schedule=Later date="2014/12/25 00:00:00" notification=send_only_failed
4000000000003500
```

この例では、次に示す設定内容でバックアップするタスクを登録します。

- バックアップする管理対象リソース (MAC アドレス)
00:00:87:1A:2B:3C
- バックアップ対象のディスク
ディスク 1 のパーティション 2
- 保存するバックアップイメージファイル名
E:¥csm-cli¥BK-2014-12-25.lbr
- バックアップイメージファイルの圧縮
圧縮する (省略時のデフォルト値)
- 強制電源 OFF
許可しない (省略時のデフォルト値)
- バックアップ完了時の電源制御
電源 ON にする
- バックアップを実行する日時
2014 年 12 月 25 日の午前 0 時に開始
- E メール通知
タスクが失敗した場合だけ通知する

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

注意事項

- **DpmBackup** コマンドを実行すると、指定した管理対象リソースのバックアッププロファイルの内容をコマンドで指定した内容で上書きします。コマンドの実行後、GUI で表示するとコマンドで指定した内容が反映されます。
- backupFileName パラメーターで指定したパスに同じ名前のファイルがある場合、ファイルを上書きします。複数のバックアップイメージファイルを残す場合は、指定するファイル名を変えてください。
- CLI から管理対象リソースをバックアップするタスクを登録する場合は、GUI から登録する場合と異なり、バックアップイメージファイルの拡張子の前にサフィックスなどの追加文字を付けません。CLI コマンドで指定したファイル名でバックアップイメージファイルが作成されます。

関連コマンド

- [2.32 DpmRestore \(dpmrestore\)](#)
- [2.33 DpmDeleteImageFile \(dpmdeleteimagefile\)](#)

2.32 DpmRestore (dpmrestore)

指定した管理対象リソースのディスク全体、またはパーティションをバックアップイメージファイルを使ってリストアするタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csn {DpmRestore | dpmrestore} macAddr=<MAC アドレス>  
backupFileName=<バックアップイメージファイル名>  
[diskNo=<ディスク番号>] [partitionNo=<パーティション番号>]  
[allowForcePowerOff={yes | no}] [powerStatusAfterTask={on | off | same}]  
[schedule={Now | Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]  
[notification={send | not_send | send_only_failed}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
macAddr	リストアする管理対象リソースの MAC アドレスを指定します。MAC アドレスの値は <XX:XX:XX:XX:XX:XX> の形式で指定する必要があります。XX は 2 桁の 16 進数です。
backupFileName	管理サーバに保存されているバックアップイメージファイル名を指定します。拡張子「.lbr」も含めた 128 バイト以内の絶対パスを指定してください。ドライブ文字の「:」を除き、次の文字は使用できません。 /*?<>" ;
diskNo	リストアするディスク番号を指定します。1 から 1,000 の範囲の整数で指定してください。 デフォルトではバックアップ時の指定を自動的に引き継ぎます。
partitionNo	リストアするパーティション番号を指定します。1 から 1,000 の範囲の整数で指定してください。 デフォルトではバックアップ時の指定を自動的に引き継ぎます。
allowForcePowerOff	リストアする管理対象リソースの電源状態が ON だった場合に、管理対象リソースの電源を強制的に OFF にするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• yes : 許可する (電源を強制的に OFF にする)• no : 許可しない (電源を強制的に OFF にしない)

パラメーター	説明
	デフォルトの値は no です。
powerStatusAfterTask	リストア完了時に管理対象リソースの電源状態をどのように制御するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> on : 電源 ON にする off : 電源 OFF にする same : リストア実行前と同じ状態にする デフォルトの値は same です。
schedule	リストアを開始するスケジュールを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> Now : 即時開始 Later : date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。
date	リストアを開始する日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合は、date は必須です。
notification	E メール通知の方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> send : E メール通知あり not_send : E メール通知なし send_only_failed : タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は not_send です。

事前に確認しておく情報

- 操作する管理対象リソースの MAC アドレス
管理対象リソースをデプロイメントマネージャーに追加した際に検出した MAC アドレスを確認してください。
- 操作する管理対象リソースのディスク構成
OS 上で表示されるディスク番号やパーティション番号と、デプロイメントマネージャーが認識する番号が異なる場合があります。事前にデプロイメントマネージャーが認識する番号を確認することを推奨します。
- 管理対象リソースにリストアするバックアップイメージファイル名

MAC アドレスは [デプロイメントリソース] 画面の一覧を、ディスク構成は操作する管理対象リソースのディスク構成情報を、それぞれ GUI で参照して確認してください。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- login コマンドによる管理サーバとのセッションの開始
- 操作する管理対象リソースのデプロイメントマネージャーへの追加

管理対象リソースをデプロイメントマネージャーに追加する手順については、マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

例

DpmBackup コマンドの例に従ってバックアップしたイメージファイルを即時にリストアするタスクを登録する例を示します。

```
Client1>csm DpmRestore macAddr=00:00:87:1A:2B:3C backupFileName=E:\csm-
cli\BK-2014-12-25.lbr allowForcePowerOff=yes schedule=Now
notification=send
4000000000004000
```

この例では、次に示す設定内容でリストアするタスクを登録します。

- リストアする管理対象リソース (MAC アドレス)
00:00:87:1A:2B:3C
- リストアに使用するバックアップイメージファイル名
E:¥csm-cli¥BK-2014-12-25.lbr
- リストア対象のディスク
ディスク 1 のパーティション 2 (指定が省略されているため、バックアップ時の指定が引き継がれます)
- 強制電源 OFF
許可する
- リストア完了時の電源制御
リストア実行前と同じ状態にする
- リストアを実行する日時
即時開始
- E メール通知
タスクの実行結果に関係なく常に通知する

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

注意事項

- **DpmRestore** コマンドを実行すると、指定した管理対象リソースのリストアプロファイルの内容をコマンドで指定した内容で上書きします。コマンドの実行後、GUI で表示するとコマンドで指定した内容が反映されます。
- リストアに使用できるバックアップイメージファイルは、デプロイメントマネージャーが管理しているバックアップイメージファイルに限ります。管理サーバのファイルシステム上にあっても、デプロイメントマネージャーが管理していないイメージファイルは使用できません。ほかの管理サーバで保存したバックアップイメージファイルを使用する場合などは、そのバックアップイメージファイルを GUI からデプロイメントマネージャーにインポートしてください。イメージファイルのインポート方法については、マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

関連コマンド

- [2.31 DpmBackup \(dpmbackup\)](#)
- [2.33 DpmDeleteImageFile \(dpmdeleteimagefile\)](#)

2.33 DpmDeleteImageFile (dpmdeleteimagefile)

指定したイメージファイルを管理サーバから削除します。

このコマンドは、デプロイメントマネージャーのライセンスがなくても実行できます。

構文

```
csm {DpmDeleteImageFile | dpmdelimagefile} fileName=<イメージファイル名>
```

パラメーター

パラメーター	説明
fileName	管理サーバに保存されているバックアップイメージファイル名、またはスナップショットイメージファイル名を指定します。拡張子「.lbr」も含めた 128 バイト以内の絶対パスを指定してください。 ドライブ文字の「:」を除き、次の文字は使用できません。 /*?<>" :;

事前に確認しておく情報

- 削除するイメージファイル名

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- `login` コマンドによる管理サーバとのセッションの開始

例

ファイル名 `E:\csm-cli\BK-2014-12-25.lbr` のバックアップイメージファイルを削除する例を示します。

```
Client1>csm DpmDeleteImageFile fileName=E:\csm-cli\BK-2014-12-25.lbr  
Done.
```

戻り値

値	意味
0	イメージファイルの削除に成功した。
1	イメージファイルの削除に失敗した。

注意事項

`DpmDeleteImageFile` コマンドで削除できるファイルは、デプロイメントマネージャーが管理しているイメージファイルに限ります。管理サーバのファイルシステム上にあっても、デプロイメントマネージャーが管理していないファイルは削除できません。

関連コマンド

- [2.31 DpmBackup \(dpmbackup\)](#)

2.34 DpmSnapshot (dpmsnapshot)

指定した管理対象リソースのディスク全体、またはパーティションのスナップショットイメージを取得するタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csn {DpmSnapshot | dpmsnapshot} macAddr=<MAC アドレス>
diskNo=<ディスク番号> [partitionNo=<パーティション番号>]
[snapshotEntireDisk={enable | disable}]
snapshotFileName=<スナップショットイメージファイル名>
[compressSnapshotData={enable | disable}]
[allowForcePowerOff={yes | no}] [powerStatusAfterTask={on | off | same}]
[schedule={Now | Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]
[notification={send | not_send | send_only_failed}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
macAddr	スナップショットを取得する管理対象リソースの MAC アドレスを指定します。MAC アドレスの値は <XX:XX:XX:XX:XX:XX > の形式で指定してください。XX は 2 桁の 16 進数です。
diskNo	スナップショットを取得するディスク番号を指定します。1 から 1,000 の範囲の整数で指定してください。
partitionNo	スナップショットを取得するパーティション番号を指定します。1 から 1,000 の範囲の整数で指定してください。 デフォルトでは diskNo で指定したディスクの全パーティションのスナップショットを取得します。
snapshotEntireDisk	diskNo で指定したディスクについて、ディスク上の全セクターのスナップショットを取得するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• enable: 未使用セクターも含めた全セクターのスナップショットを取得する• disable: 有効セクターのスナップショットを取得する デフォルトの値は disable です。 partitionNo を指定してパーティションのスナップショットを取得する場合、このパラメーターは無視されます。 全セクターの指定が必要なファイルシステムを含むディスクのスナップショットを取得する場合、必ず enable を指定してください。セクターの指定の詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。
snapshotFileName	管理サーバに保存するスナップショットイメージファイル名を指定します。拡張子「.lbr」も含めた 128 バイト以内の絶対パスを指定してください。 ドライブ文字の「:」を除き、次の文字は使用できません。 /*?<>" ;:
compressSnapshotData	スナップショットイメージファイルを圧縮するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• enable: 圧縮する• disable: 圧縮しない デフォルトの値は enable です。
allowForcePowerOff	スナップショットを取得する管理対象リソースの電源状態が ON だった場合に、管理対象リソースの電源を強制的に OFF にするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• yes: 許可する (電源を強制的に OFF にする)• no: 許可しない (電源を強制的に OFF にしない) デフォルトの値は no です。
powerStatusAfterTask	スナップショットの取得完了時に管理対象リソースの電源状態をどのように制御するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• on: 電源 ON にする• off: 電源 OFF にする• same: スナップショット取得実行前と同じ状態にする デフォルトの値は same です。
schedule	スナップショットの取得を開始するスケジュールを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• Now: 即時開始• Later: date で指定した日時に開始 Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。

パラメーター	説明
date	スナップショットの取得を開始する日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「'''」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合、date は必須です。
notification	E メール通知の方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • send : E メール通知あり • not_send : E メール通知なし • send_only_failed : タスク失敗時だけ E メール通知あり デフォルトの値は not_send です。

事前に確認しておく情報

- 操作する管理対象リソースの MAC アドレス
管理対象リソースをデプロイメントマネージャーに追加した際に検出した MAC アドレスを確認してください。
- 操作する管理対象リソースのディスク構成
OS 上で表示されるディスク番号やパーティション番号と、デプロイメントマネージャーが認識する番号が異なる場合があります。事前にデプロイメントマネージャーが認識する番号を確認することを推奨します。

MAC アドレスは [デプロイメントリソース] 画面の一覧を、ディスク構成は操作する管理対象リソースのディスク構成情報を、それぞれ GUI で参照して確認してください。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- **login** コマンドによる管理サーバとのセッションの開始
- 操作する管理対象リソースのデプロイメントマネージャーへの追加
- 操作する管理対象リソース上のホスト (OS) の管理対象への追加
- Sysprep ツールのダウンロード
スナップショットを取得する管理対象リソース上のホスト (OS) に管理者権限でログインし、固有情報を削除するツール (Sysprep) をダウンロードします。
- 固有情報の削除
ダウンロードした Sysprep ツールを実行し、スナップショットを取得する管理対象リソースのディスクから固有情報を削除します。

管理対象リソースをデプロイメントマネージャーに追加する手順やホストを管理対象に追加する手順、および Sysprep ツールのダウンロード手順については、マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。また、Sysprep ツールの実行方法についてはダウンロードしたツールに同梱されている ReadMe ファイルを参照してください。

例

MAC アドレスが「00:00:87:1A:2B:3C」の管理対象リソースのスナップショットを、ファイル名 E:¥csm-cli¥SN-2014-12-25.lbr を指定して取得するタスクを登録する例を示します。

```
Client1>csm DpmSnapshot macAddr=00:00:87:1A:2B:3C diskNo=1
snapshotEntireDisk=enable snapshotFileName=E:¥csm-cli¥SN-2014-12-25.lbr
powerStatusAfterTask=off schedule=Now notification=send_only_failed
400000000004500
```

この例では、次に示す設定内容でスナップショットを取得するタスクを登録します。

- スナップショットを取得する管理対象リソース (MAC アドレス)
00:00:87:1A:2B:3C
- スナップショット取得対象のディスク
ディスク 1 の全セクター (省略時のデフォルト値)
- 保存するスナップショットイメージファイル名
E:¥csm-cli¥SN-2014-12-25.lbr
- スナップショットイメージファイルの圧縮
圧縮する (省略時のデフォルト値)
- 強制電源 OFF
許可しない (省略時のデフォルト値)
- スナップショットの取得完了時の電源制御
電源 OFF にする
- スナップショット取得を実行する日時
即時開始
- E メール通知
タスクが失敗した場合だけ通知する

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

注意事項

- **DpmSnapshot** コマンドを実行すると、指定した管理対象リソースのスナップショットプロファイルの内容をコマンドで指定した内容で上書きします。コマンドの実行後、GUI で表示するとコマンドで指定した内容が反映されます。
- `snapshotFileName` パラメーターで指定したパスに同じ名前のファイルがある場合、ファイルを上書きします。複数のスナップショットイメージファイルを残す場合は、指定するファイル名を変えてください。
- CLI から管理対象リソースのスナップショットを取得するタスクを登録する場合は、GUI から登録する場合と異なり、スナップショットイメージファイルの拡張子の前にサフィックスなどの追加文字を付けません。コマンドで指定したファイル名でスナップショットイメージファイルが作成されます。

関連コマンド

- [2.36 DpmDeploy \(dpmdeploy\)](#)

2.35 DpmCreateTemplate (dpmcreatetemplate)

指定した既存のデプロイテンプレートをひな形にして、新しいデプロイテンプレートを作成します。ひな形となる既存のデプロイテンプレートを、ベーステンプレートと呼びます。

DpmCreateTemplate コマンドでは、ベーステンプレートのホスト名やネットワーク設定をカスタマイズして新しいデプロイテンプレートを作成できます。

カスタマイズできる Windows 用デプロイテンプレート、および Linux 用デプロイテンプレートの設定項目を表に示します。表中の分類欄は GUI のデプロイテンプレート作成ウィザードの各画面に対応する分類です。説明欄に記載のあるコマンドのパラメーターについては「パラメーター」を参照してください。

Windows 用デプロイテンプレートの項目のカスタマイズ可否は次のとおりです。

分類	項目	カスタマイズ可否	説明
基本情報	名前	○	templateName パラメーターで指定する。
	説明	×	設定しない。
OS 設定	OS 名	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
	ホスト名	○	hostName パラメーターで指定する。
	ドメインアカウント	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
	ドメインパスワード	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
	ワークグループ	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
	プロダクトキー	○	productKey パラメーターで指定する。
	タイムゾーン	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
	言語設定	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
	ユーザー名	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
	会社名	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
	管理者パスワード	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
ネットワーク設定	MAC アドレス	○	macAddr パラメーターで指定する。
	IP アドレス	○	ipAddr パラメーターで指定する。
	サブネットマスク	○	subnet パラメーターで指定する。
	デフォルトゲートウェイ	○	gateway パラメーターで指定する。
	メトリック	○	metric パラメーターで指定する。
	DNS	○	dnsServer パラメーターで指定する。
	WINS	○	winsServer パラメーターで指定する。

(凡例)

- : カスタマイズできる
- × : カスタマイズできない

Linux 用デプロイテンプレートの項目のカスタマイズ可否は次のとおりです。

分類	項目	カスタマイズ可否	説明
基本情報	名前	○	templateName パラメーターで指定する。
	説明	×	設定しない。
OS 設定	ホスト名	○	hostName パラメーターで eth0 のホスト名として指定した値が自動的に設定される。
	プライマリ DNS	○	primaryDnsServer パラメーターで指定する。
	セカンダリ DNS1	○	secondaryDnsServer1 パラメーターで指定する。
	セカンダリ DNS2	○	secondaryDnsServer2 パラメーターで指定する。
	タイムゾーン	×	ベーステンプレートから引き継ぐ。
ネットワーク設定	MAC アドレス	○	macAddr パラメーターで指定する。
	IP アドレス	○	ipAddr パラメーターで指定する。

分類	項目	カスタマイズ可否	説明
	サブネットマスク	○	subnet パラメーターで指定する。
	デフォルトゲートウェイ	○	gateway パラメーターで指定する。
	デバイス名	○	interfaceName パラメーターで指定する。
	ホスト名	○	hostName パラメーターで指定する。

(凡例)

○ : カスタマイズできる

× : カスタマイズできない

GUI の Linux 用のデプロイテンプレート作成ウィザードには、[OS 設定] と [ネットワーク設定] の両方に [ホスト名] ボックスがあり、[OS 設定] で指定したホスト名が [ネットワーク設定] でデバイス名に「eth0」を指定したデバイスのホスト名に自動的に引き継がれます。CLI では、「eth0」のホスト名として指定した hostName パラメーターの値が「OS 設定」のホスト名に設定されます。

構文

Windows 用デプロイテンプレート作成時のコマンド形式は次のとおりです。

```

csm {DpmCreateTemplate | dpmcreatetemplate} osType=Windows
templateName=<新規テンプレート名> baseTemplateName=<ベーステンプレート名>
hostName=<ホスト名> productKey=<Windows プロダクトキー>
macAddr=<MAC アドレス 1 > [, <MAC アドレス 2 > , ... , <MAC アドレス 4 > ]
ipAddr=<IP アドレス 1 > [, <IP アドレス 2 > , ... , <IP アドレス 4 > ]
subnet=<サブネットマスク 1 > [, <サブネットマスク 2 > , ... , <サブネットマスク 4 > ]
gateway=<デフォルトゲートウェイ 1 > [, <デフォルトゲートウェイ 2 > , ... , <デフォルトゲートウェイ 4 > ]
metric=<ゲートウェイメトリック 1 > [, <ゲートウェイメトリック 2 > , ... , <ゲートウェイメトリック 4 > ]
dnsServer=<DNS サーバアドレス 1 > [, <DNS サーバアドレス 2 > , ... , <DNS サーバアドレス 4 > ]
winsServer=<WINS サーバアドレス 1 > [, <WINS サーバアドレス 2 > , ... , <WINS サーバアドレス 4 > ]

```

パラメーター macAddr, ipAddr, subnet, gateway, metric, dnsServer, winsServer はコンマ区切りで最大 4 つまで指定できます。それぞれのパラメーターの個数は一致させてください。また、各パラメーターは指定した順番に組み合わせられるため、その組み合わせに矛盾がないように注意して指定してください。

Linux 用デプロイテンプレート作成時のコマンド形式は次のとおりです。

```

csm {DpmCreateTemplate | dpmcreatetemplate} osType=Linux
templateName=<新規テンプレート名> baseTemplateName=<ベーステンプレート名>
primaryDnsServer=<プライマリ DNS サーバアドレス>
secondaryDnsServer1=<セカンダリ DNS サーバアドレス 1 >
secondaryDnsServer2=<セカンダリ DNS サーバアドレス 2 >
macAddr=<MAC アドレス 1 > [, <MAC アドレス 2 > , ... , <MAC アドレス 7 > ]
ipAddr=<IP アドレス 1 > [, <IP アドレス 2 > , ... , <IP アドレス 7 > ]
subnet=<サブネットマスク 1 > [, <サブネットマスク 2 > , ... , <サブネットマスク 7 > ]
gateway=<デフォルトゲートウェイ 1 > [, <デフォルトゲートウェイ 2 > , ... , <デフォルトゲートウェイ 7 > ]
interfaceName=<インターフェース名 1 > [, <インターフェース名 2 > , ... , <インターフェース名 7 > ]
hostName=<ホスト名 1 > [, <ホスト名 2 > , ... , <ホスト名 7 > ]

```

パラメーター macAddr, ipAddr, subnet, gateway, interfaceName, hostName はコンマ区切りで最大 7 つまで指定できます。それぞれのパラメーターの個数は一致させてください。また、各パラメーターは指定した順番に組み合わせられるため、その組み合わせに矛盾がないように注

意して指定してください。Linux 用デプロイテンプレートではホスト名は IP ネットワークインターフェースごとに指定します。

パラメーター

Windows 用デプロイテンプレート作成時、および Linux 用デプロイテンプレート作成時に共通して指定するコマンドのパラメーターの詳細を次に示します。

パラメーター	説明
osType	作成するデプロイテンプレートの OS 種別を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> Windows : Windows 用デプロイテンプレートを作成する Linux : Linux 用デプロイテンプレートを作成する
templateName	作成するデプロイテンプレート名を指定します。 次に示す文字が使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> 半角英数字 : A~Z a~z 0~9 半角記号 : - _ 半角スペース マルチバイト文字 (UTF-8) 数字と半角スペースだけで記述されたデプロイテンプレート名は指定できません。 指定できる文字列長は UTF-8 でエンコードした文字列のバイト数で 128 バイト以内です。
baseTemplateName	ベーステンプレート名を指定します。

Windows 用テンプレート作成時に指定するコマンドのパラメーターの詳細を次に示します。

パラメーター	説明
hostName	ホスト名を指定します。 半角スペースと次の文字は使用できません。 .,`~!@#\$%*%={} ;:'"<>/?[]^() 数字だけで記述されたホスト名は指定できません。 ホスト名にマルチバイト文字を使用できます。指定できる文字列長は UTF-8 でエンコードした文字列のバイト数で 15 バイト以内です。 ホスト名は半角英数字と半角ハイフンだけで指定することを推奨します。
productKey	Windows のプロダクトキーを指定します。プロダクトキーの値は <XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX> の形式で指定してください。X は 1 桁の半角英数字です。
macAddr	ネットワークインターフェースデバイスの MAC アドレスを指定します。MAC アドレスの値は <XX:XX:XX:XX:XX:XX> の形式で指定してください。XX は 2 桁の 16 進数です。 MAC アドレスを明示的に指定する必要がない場合は auto を指定してください。
ipAddr	macAddr で指定したネットワークインターフェースデバイスに割り当てる IPv4 アドレスをゼロサブレス形式で指定します。 IP アドレスを自動取得する場合は auto を指定してください。
subnet	macAddr と ipAddr で指定した IP ネットワークインターフェースに割り当てるサブネットマスクをゼロサブレス形式の IPv4 アドレスで指定します。 ipAddr に auto を指定した場合は、subnet にも auto を指定してください。 それ以外の値が指定された場合にはその値は無視され、auto として解釈されます。
gateway	macAddr と ipAddr で指定した IP ネットワークインターフェースに割り当てるデフォルトゲートウェイをゼロサブレス形式の IPv4 アドレスで指定します。 IP ネットワークインターフェースにデフォルトゲートウェイを設定しない場合は none を指定してください。 ipAddr に auto を指定した場合は、gateway にも auto を指定してください。

パラメーター	説明
	それ以外の値が指定された場合にはその値は無視され、auto として解釈されま す。
metric	gateway で指定したデフォルトゲートウェイに設定するゲートウェイメトリッ ク値を指定します。1 から 9,999 の範囲の整数で指定してください。 gateway に auto, または none を指定した場合は、metric にも auto, none を指定してください。 それ以外の値が指定された場合にはその値は無視され、auto または none として 解釈されます。
dnsServer	macAddr と ipAddr で指定した IP ネットワークインターフェースで使用する DNS サーバの IPv4 アドレスをゼロサブレス形式で指定します。 DNS サーバを自動取得する場合は auto を指定してください。
winsServer	macAddr と ipAddr で指定した IP ネットワークインターフェースで使用する WINS サーバの IPv4 アドレスをゼロサブレス形式で指定します。 WINS サーバを自動取得する場合は auto を指定してください。

Linux 用テンプレート作成時に指定するコマンドのパラメーターの詳細を次に示します。

パラメーター	説明
primaryDnsServer	プライマリ DNS サーバの IPv4 アドレスをゼロサブレス形式で指定します。 プライマリ DNS サーバを設定しない場合は none を指定してください。
secondaryDnsServer 1	セカンダリ DNS サーバ 1 の IPv4 アドレスをゼロサブレス形式で指定します。 セカンダリ DNS サーバ 1 を設定しない場合は none を指定してください。
secondaryDnsServer 2	セカンダリ DNS サーバ 2 の IPv4 アドレスをゼロサブレス形式で指定します。 セカンダリ DNS サーバ 2 を設定しない場合は none を指定してください。
macAddr	ネットワークインターフェースデバイスの MAC アドレスを指定します。MAC アドレスの値は <XX:XX:XX:XX:XX:XX> の形式で指定してください。XX は 2 桁の 16 進数です。 MAC アドレスを明示的に指定する必要がない場合は auto を指定してください。
ipAddr	macAddr で指定したネットワークインターフェースデバイスに割り当てる IPv4 アドレスをゼロサブレス形式で指定します。 IP アドレスを自動取得する場合は auto を指定してください。
subnet	macAddr と ipAddr で指定した IP ネットワークインターフェースに割り当てる サブネットマスクをゼロサブレス形式の IPv4 アドレスで指定します。 ipAddr に auto を指定した場合は、subnet にも auto を指定してください。 それ以外の値が指定された場合にはその値は無視され、auto として解釈されま す。
gateway	macAddr と ipAddr で指定した IP ネットワークインターフェースに割り当てる デフォルトゲートウェイをゼロサブレス形式の IPv4 アドレスで指定します。 インターフェースにデフォルトゲートウェイを設定しない場合は none を指定し てください。 ipAddr に auto を指定した場合は、gateway にも auto を指定してください。 それ以外の値が指定された場合にはその値は無視され、auto として解釈されま す。
interfaceName	macAddr と ipAddr で指定した IP ネットワークインターフェースの、イーサ ネットインターフェース名を指定します。 Compute Systems Manager では次のイーサネットインターフェース名をサポー トします。 eth0, eth1, eth2, eth3, eth4, eth5, eth6 eth0 は必ず指定してください。 イーサネットインターフェース名は重複して使用できません。
hostName	macAddr と ipAddr で指定した IP ネットワークインターフェースのホスト名を 指定します。

パラメーター	説明
	IP ネットワークインターフェースごとに個別のホスト名を指定できますが、個別のホスト名が不要な場合は eth0 と同じホスト名を指定してください。 半角スペースと次の文字は使用できません。 ¥/:;?* "<>' []@ 数字だけで記述されたホスト名は指定できません。 マルチバイト文字は使用できません。 255 バイト以内で指定してください。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- **login** コマンドによる管理サーバとのセッションの開始
- 作成しようとしているデプロイテンプレートのひな形となるベーステンプレートの作成
ベーステンプレートは OS ごとに作成しておく必要があります。

例

DpmCreateTemplate コマンドで Windows 用のデプロイテンプレートを作成する例を次に示します。

```
Client1>csm DpmCreateTemplate osType=Windows
templateName=WindowsTemplate1225
baseTemplateName=Windows2012BaseTemplate hostName=FOO
productKey=12345-12345-12345-12345-12345 macAddr=00:00:87:1A:2B:3C,
00:00:87:4A:5B:6C ipAddr=172.16.0.51,192.168.0.51
subnet=255.240.0.0,255.255.255.0 gateway=172.16.0.1,none metric=20,none
dnsServer=172.16.0.100,auto winsServer=auto,auto
Done.
```

この例では、次に示す設定内容で Windows 用のデプロイテンプレートを作成します。

- 新規テンプレート名
WindowsTemplate1225
- ベーステンプレート名
Windows2012BaseTemplate
- ホスト名
FOO
- Windows プロダクトキー
12345-12345-12345-12345-12345
- ネットワーク設定
複製先の管理対象リソースの 2 枚のネットワークインターフェースデバイスをそれぞれ NIC#1, NIC#2 としています。
 - NIC#1
MAC アドレス : 00:00:87:1A:2B:3C
IP アドレス : 172.16.0.51 /12
デフォルトゲートウェイ : 172.16.0.1
ゲートウェイメトリック : 20
DNS サーバアドレス : 172.16.0.100
WINS サーバアドレス : 自動取得
 - NIC#2
MAC アドレス : 00:00:87:4A:5B:6C

IP アドレス : 192.168.0.51 /24
デフォルトゲートウェイ : 設定しない
ゲートウェイメトリック : 設定しない
DNS サーバアドレス : 自動取得
WINS サーバアドレス : 自動取得

上記以外の設定はベーステンプレートの設定を引き継ぎます。

DpmCreateTemplate コマンドで Linux 用のデプロイテンプレートを作成する例を示します。

```
Client1>csm DpmCreateTemplate osType=Linux templateName=
LinuxTemplate1225 baseTemplateName=RHEL6BaseTemplate
primaryDnsServer=172.16.0.101 secondaryDnsServer1=172.16.0.102
secondaryDnsServer2=none macAddr=00:00:87:1A:2B:3C,00:00:87:4A:5B:6C,
00:00:87:7A:8B:9C ipAddr=172.16.0.51,192.168.0.51,auto
subnet=255.240.0.0,255.255.255.0,auto
gateway=172.16.0.1,192.168.0.1,auto interfaceName=eth0,eth1,eth2
hostName=FOO,BAR,BAZ
Done.
```

この例では、次に示す設定内容で Linux 用のデプロイテンプレートを作成します。

- 新規テンプレート名
LinuxTemplate1225
- ベーステンプレート名
RHEL6BaseTemplate
- DNS サーバ
プライマリ DNS サーバアドレス : 172.16.0.101
セカンダリ DNS サーバアドレス 1 : 172.16.0.102
セカンダリ DNS サーバアドレス 2 : 設定しない
- ネットワーク設定
複製先の管理対象リソースの 3 枚のネットワークインターフェースデバイスをそれぞれ NIC#1, NIC#2, NIC#3 としています。
 - NIC#1
インターフェース名 : eth0
ホスト名 : FOO
MAC アドレス : 00:00:87:1A:2B:3C
IP アドレス : 172.16.0.51 /12
デフォルトゲートウェイ : 172.16.0.1
 - NIC#2
インターフェース名 : eth1
ホスト名 : BAR
MAC アドレス : 00:00:87:4A:5B:6C
IP アドレス : 192.168.0.51 /24
デフォルトゲートウェイ : 192.168.0.1
 - NIC#3
インターフェース名 : eth2
ホスト名 : BAZ
MAC アドレス : 00:00:87:7A:8B:9C
IP アドレス : 自動取得

デフォルトゲートウェイ：自動取得

上記以外の設定はベーステンプレートの設定を引き継ぎます。

戻り値

値	意味
0	デプロイテンプレートの作成に成功した。
1	デプロイテンプレートの作成に失敗した。

関連コマンド

- 2.36 DpmDeploy (dpmdeploy)

2.36 DpmDeploy (dpmdeploy)

指定した管理対象リソースにマスターイメージをデプロイするタスクを登録します。

タスクの登録が成功した場合、タスク ID を表示します。

構文

```
csm {DpmDeploy | dpmdeploy} macAddr=<MAC アドレス>  
snapshotFileName=<スナップショットイメージファイル名>  
templateName=<デプロイテンプレート名>  
[diskNo=<ディスク番号>] [partitionNo=<パーティション番号>]  
[allowForcePowerOff={yes | no}]  
[schedule={Now | Later date="<YYYY/MM/DD HH:MM:SS >"}]  
[notification={send | not_send | send_only_failed}]
```

パラメーター

パラメーター	説明
macAddr	マスターイメージをデプロイする管理対象リソースの MAC アドレスを指定します。MAC アドレスの値は <XX:XX:XX:XX:XX:XX> の形式で指定する必要があります。XX は 2 桁の 16 進数です。
snapshotFileName	管理サーバに保存されているスナップショットイメージファイル名を指定します。拡張子「.lbr」も含めた 128 バイト以内の絶対パスを指定してください。ドライブ文字の「:」を除き、次の文字は使用できません。 /*?<>" :;
templateName	管理サーバに保存されているデプロイテンプレート名を指定します。次に示す文字が使用できます。 <ul style="list-style-type: none">半角英数字：A～Z a～z 0～9半角記号：- _半角スペースマルチバイト文字（UTF-8） 数字と半角スペースだけで記述されたデプロイテンプレート名は指定できません。指定できる文字列長は UTF-8 でエンコードした文字列のバイト数で 128 バイト以内です。
diskNo	デプロイするディスク番号を指定します。1 から 1,000 の範囲の整数で指定してください。デフォルトではスナップショット取得時の指定を自動的に引き継ぎます。
partitionNo	デプロイするパーティション番号を指定します。1 から 1,000 の範囲の整数で指定してください。デフォルトではスナップショット取得時の指定を自動的に引き継ぎます。

パラメーター	説明
allowForcePowerOff	<p>マスターイメージをデプロイする管理対象リソースの電源状態が ON だった場合に、管理対象リソースの電源を強制的に OFF にするかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • yes : 許可する (電源を強制的に OFF にする) • no : 許可しない (電源を強制的に OFF にしない) <p>デフォルトの値は no です。</p>
schedule	<p>デプロイを開始するスケジュールを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Now : 即時開始 • Later : date で指定した日時に開始 <p>Later を指定する場合は、date も合わせて指定してください。 デフォルトの値は Now です。</p>
date	<p>デプロイを開始する日付と時刻を、YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で指定します。この値は、「"」で囲む必要があります。 schedule に Later を指定する場合は、date は必須です。</p>
notification	<p>E メール通知の方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • send : E メール通知あり • not_send : E メール通知なし • send_only_failed : タスク失敗時だけ E メール通知あり <p>デフォルトの値は not_send です。</p>

事前に確認しておく情報

- 複製元と複製先の管理対象リソースのモデルおよびハードウェア構成が同じであること
- 複製先の管理対象リソースの MAC アドレス
管理対象リソースをデプロイメントマネージャーに追加した際に検出した MAC アドレスを確認してください。
- 複製先の管理対象リソースのディスク構成
OS 上で表示されるディスク番号やパーティション番号と、デプロイメントマネージャーが認識する番号が異なる場合があります。事前にデプロイメントマネージャーが認識する番号を確認することを推奨します。

MAC アドレスは [デプロイメントリソース] 画面の一覧を、ディスク構成は操作する管理対象リソースのディスク構成情報を、それぞれ GUI で参照して確認してください。

事前に完了しておく操作

- 管理サーバの起動
- **login** コマンドによる管理サーバとのセッションの開始
- 複製先の管理対象リソースのデプロイメントマネージャーへの追加
- 複製元の管理対象リソースのスナップショット取得
複製元の管理対象リソースのスナップショットをあらかじめ作成しておく必要があります。
- 複製先の管理対象リソースのデプロイテンプレートの作成
複製先の管理対象リソースにマスターイメージをデプロイするためのデプロイテンプレートをあらかじめ作成しておく必要があります。

管理対象リソースをデプロイメントマネージャーに追加する手順については、マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

例

DpmSnapshot コマンドの例に従って取得したスナップショットイメージファイルにデプロイテンプレートを設定してマスターイメージをデプロイするタスクを登録する例を示します。

```
Client1>csm DpmDeploy macAddr=00:00:87:1A:2B:3C snapshotFileName=E:\csm-
cli\SN-2014-12-25.lbr templateName=WindowsTemplate1225
allowForcePowerOff=yes schedule=Now notification=send
400000000005000
```

この例では、次に示す設定内容でマスターイメージをデプロイするタスクを登録します。

- マスターイメージをデプロイする管理対象リソース (MAC アドレス)
00:00:87:1A:2B:3C
- スナップショットイメージファイル名
E:\csm-cli\SN-2014-12-25.lbr
- デプロイテンプレート名
WindowsTemplate1225
- デプロイ対象のディスク
ディスク 1 の全セクター (省略時のデフォルト値)
- 強制電源 OFF
許可する
- デプロイを実行する日時
即時開始
- E メール通知
タスクの実行結果に関係なく常に通知する

戻り値

値	意味
0	タスクの登録に成功した。
1	タスクの登録に失敗した。

注意事項

- **DpmDeploy** コマンドを実行すると、マスターイメージをデプロイする管理対象リソースのデプロイプロファイルの内容をコマンドで指定した内容で上書きします。コマンドの実行後、GUI で表示するとコマンドで指定した内容が反映されます。
- デプロイに使用できるスナップショットイメージファイルは、デプロイメントマネージャーが管理しているスナップショットイメージファイルに限ります。管理サーバのファイルシステム上にあっても、デプロイメントマネージャーが管理していないイメージファイルは使用できません。別の管理サーバで保存したスナップショットイメージファイルを使用する場合は、そのスナップショットイメージファイルをデプロイメントマネージャーにインポートしてください。イメージファイルのインポート方法については、マニュアル「*Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド*」を参照してください。

関連コマンド

- [2.34 DpmSnapshot \(dpmsnapshot\)](#)
- [2.35 DpmCreateTemplate \(dpmcreatetemplate\)](#)

トラブルシューティング

この章では、Compute Systems Manager の CLI のトラブルシューティング情報について説明します。

- [3.1 JRE のトラブルシューティング](#)

3.1 JRE のトラブルシューティング

インストールされている JRE のバージョンが 6 より前の場合、管理クライアントで CLI コマンドを実行すると、次のエラーが出力されます。

```
Exception in thread "main"  
java.lang.UnsupportedClassVersionError:Bad version number in .class file  
at java.lang.ClassLoader.defineClass1(Native Method)  
at java.lang.ClassLoader.defineClass(ClassLoader.java:621)  
at java.security.SecureClassLoader.defineClass(SecureClassLoader.java:  
124)  
at java.net.URLClassLoader.defineClass(URLClassLoader.java:260)  
at java.net.URLClassLoader.access$100(URLClassLoader.java:56)  
at java.net.URLClassLoader$1.run(URLClassLoader.java:195)  
at java.security.AccessController.doPrivileged(Native Method)  
at java.net.URLClassLoader.findClass(URLClassLoader.java:188)  
at java.lang.ClassLoader.loadClass(ClassLoader.java:307)  
at sun.misc.Launcher$AppClassLoader.loadClass(Launcher.java:268)  
at java.lang.ClassLoader.loadClass(ClassLoader.java:252)  
at java.lang.ClassLoader.loadClassInternal(ClassLoader.java:320)
```

この問題を解決するには、次の手順に従ってください。

1. CLI コマンドを実行する管理クライアントのマシンに、必要なバージョンの JRE がインストールされていることを確認します。
2. HCSM_CLI_JRE_PATH 環境変数に、手順 1 で確認した、JRE がインストールされているパスを指定します。

取得系コマンドの出力形式

ここでは、情報を取得するためのコマンドの出力形式について説明します。

- A.1 `-format` オプションを指定した場合の出力形式
- A.2 `-count` オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 `-describe` オプションを指定した場合の出力形式

A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式

Get で始まる取得系のコマンドは、`-format` オプションの指定によって、次のどれかの形式で結果が出力されます。

- タブ区切りテキスト (`-format` オプションを指定しなかった場合)
- CSV (`-format csv` オプションを指定した場合)
- ヘッダーなし CSV (`-format csv-no-header` オプションを指定した場合)
- XML (`-format xml` オプションを指定した場合)

各形式の説明と、コマンド実行結果の出力例を次に示します。

タブ区切りテキスト出力形式

```
<大項目名> Instance
  <小項目名#1>: <小項目#1の値>
  <小項目名#2>: <小項目#2の値>
  . . .
<大項目名> Instance
  <小項目名#1>: <小項目#1の値>
  <小項目名#2>: <小項目#2の値>
  . . .
```

タブ区切りテキスト出力例 (GetHost コマンドの場合)

```
Host Instance
  hostName: HostSystem1
  osName: Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
  manufacturer: Hitachi
  ipAddress: 172.17.79.48
  productName: ComputeBlade 520HB1
  hostStatus: Running
  serialNumber: JPA308GF71
  lastRefreshed: 2013-10-22 12:05:01
  error: 46
  warning: 38
  information: 28
Host Instance
  hostName: HostSystem2
  osName: Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
  manufacturer: Hitachi
  ipAddress: 172.17.79.49
  . . .
```

CSV 出力形式

```
<小項目名#1>,<小項目名#2>,. . .
<小項目#1の値>,<小項目#2の値>. . .
<小項目#1の値>,<小項目#2の値>. . .
. . .
```

CSV 出力例 (GetHostMemory コマンドの場合)

```
hostName,totalSizeInMB,maxPageFileSizeInMB
HostSystem1,16258.9,16258.0
HostSystem2,8000.9,8000.0
```

ヘッダーなし CSV 出力形式

```
<小項目#1の値>,<小項目#2の値>. . .
<小項目#1の値>,<小項目#2の値>. . .
. . .
```

ヘッダーなし CSV 出力例 (GetHostMemory コマンドの場合)

```
HostSystem1,16258.9,16258.0
HostSystem2,8000.9,8000.0
```

XML 出力形式

```
<result>
  <大項目名>
    <小項目名#1>小項目#1 の値</小項目名#1>
    <小項目名#2>小項目#2 の値</小項目名#2>
    . . .
  </大項目名>
  <大項目名>
    <小項目名#1>小項目#1 の値</小項目名#1>
    <小項目名#2>小項目#2 の値</小項目名#2>
    . . .
  </大項目名>
  . . .
</result>
```

XML 出力例 (GetHost コマンドの場合)

```
<?xml version="1.0" encoding="MS932"?>
<result>
  <Host>
    <hostName>HostSystem1</hostName>
    <osName>Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise</osName>
    <manufacturer>Hitachi</manufacturer>
    <ipAddress>172.17.79.48</ipAddress>
    <productName>ComputeBlade 520HB1</productName>
    <hostStatus>Running</hostStatus>
    <serialNumber>JPA308GF71</serialNumber>
    <lastRefreshed>2013-10-22 13:15:17</lastRefreshed>
    <error>46</error>
    <warning>38</warning>
    <information>28</information>
  </Host>
  <Host>
    <hostName>HostSystem2</hostName>
    <osName>Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise</osName>
    <manufacturer>Hitachi</manufacturer>
    <ipAddress>172.17.79.49</ipAddress>
    . . .
  </Host>
  . . .
</result>
```

関連コマンド

- 2.8 GetAlerts (getalerts)
- 2.9 GetHost (gethost)
- 2.10 GetHostAlert (gethostalert)
- 2.11 GetHostCPU (getcpu)
- 2.12 GetHostFCNetwork (getfc)
- 2.13 GetHostFileSystem (getfilesystem)
- 2.14 GetHostIPNetwork (getip)
- 2.15 GetHostMemory (getmemory)
- 2.16 GetHostOs (getos)
- 2.17 GetHostPCI (getpci)
- 2.18 GetHostRemoteManagement (getrmtgmt)

- 2.19 GetBlade (getblade)
- 2.20 GetChassis (getchassis)
- 2.21 GetTaskInfo (gettaskinfo)

関連項目

- A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式

A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式

-count オプションを指定した場合、-format オプションの指定に沿った形式で出力されます。

-count オプションを指定した場合の各形式の説明と、コマンド実行結果の出力例を次に示します。

タブ区切りテキスト出力形式

<リソースの数>

タブ区切りテキスト出力例 (GetHost コマンドでホストが 2 個ある場合)

2

CSV 出力形式

count
リソースの数

CSV 出力例 (GetHostMemory コマンドの場合)

count
2

ヘッダーなし CSV 出力形式

リソースの数

ヘッダーなし CSV 出力例 (GetHostMemory コマンドでホストが 2 個ある場合)

2

XML 出力形式

```
<result>  
  <count>リソースの数</count>  
</result>
```

XML 出力例 (GetHost コマンドで 2 個のリソースがある場合)

```
<?xml version="1.0" encoding="MS932"?>  
<result>  
  <count>2</count>  
</result>
```

関連項目

- A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式
- A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式

A.3 -describe オプションを指定した場合の出力形式

-describe オプションを指定した場合、-format オプションの指定に沿った形式で出力されます。

-describe オプションを指定した場合の各形式の説明と、コマンド実行結果の出力例を次に示します。

タブ区切りテキスト出力形式

```
<小項目名#1 >: <小項目#1 の説明>
<小項目名#2 >: <小項目#2 の説明>
. . .
```

タブ区切りテキスト出力例 (GetHost コマンドの場合)

```
hostName           : Host name is displayed.
osName             : OS name is displayed.
manufacturer      : Manufacturer name of host machine is
displayed.
ipAddress          : Internet Protocol Address of host machine.
productName       : Product name of host machine is displayed.
hostStatus        : Current Status of the host machine is
displayed.
serialNumber      : Serial number of host machine is displayed.
lastRefreshed    : Last updated date and time of host is
displayed.
error             : Total number of Error Alerts generated.
warning          : Total number of Warning Alerts generated.
information       : Total number of Information Alerts
generated.
```

CSV 出力形式

```
columnname,description
"<小項目名#1 の値>","<小項目#2 の説明>"
"<小項目名#2 の値>","<小項目#2 の説明>"
. . .
```

CSV 出力例 (GetHostMemory コマンドの場合)

```
columnname,description
"hostName","Host name is displayed."
"totalSizeInMB","Total capacity of Memory available."
"maxPageFileSizeInMB","Capacity of physical memory and the swap file."
```

ヘッダーなし CSV 出力形式

```
"<小項目名#1 の値>","<小項目#2 の説明>"
"<小項目名#2 の値>","<小項目#2 の説明>"
. . .
```

ヘッダーなし CSV 出力例 (GetHostMemory コマンドでホストが2個ある場合)

```
"hostName","Host name is displayed."
"totalSizeInMB","Total capacity of Memory available."
"maxPageFileSizeInMB","Capacity of physical memory and the swap file."
```

XML 出力形式

```
<descriptions>
  <column>
    <name>小項目名#1</name>
    <description>小項目#1 の説明</description>
  </column>
```

```
<column>
  <name>小項目名#2</name>
  <description>小項目#2の説明</description>
</column>
<column>
  . . .
</descriptions>
```

XML 出力例 (GetHost コマンドの場合)

```
<?xml version="1.0" encoding="MS932"?>
<descriptions>
  <column>
    <name>hostName</name>
    <description>Host name is displayed.</description>
  </column>
  <column>
    <name>osName</name>
    <description>OS name is displayed.</description>
  </column>
  <column>
    <name>manufacturer</name>
    <description>Manufacturer name of host machine is displayed.</
description>
  </column>
  <column>
    . . .
  </column>
</descriptions>
```

関連項目

- [A.1 -format オプションを指定した場合の出力形式](#)
- [A.2 -count オプションを指定した場合の出力形式](#)

このマニュアルの参考情報

ここでは、このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明します。

- [B.1 関連マニュアル](#)
- [B.2 このマニュアルでの表記](#)
- [B.3 英略語](#)
- [B.4 KB（キロバイト）などの単位表記について](#)
- [B.5 ディレクトリとフォルダの表記について](#)

B.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- *Hitachi Command Suite Compute Systems Manager ユーザーズガイド* (3021-9-096)
- *Hitachi Command Suite Compute Systems Manager 導入・設定ガイド* (3021-9-097)
- *Hitachi Command Suite Compute Systems Manager メッセージ* (3021-9-100)
- *Hitachi Command Suite メッセージ* (3021-9-011)

B.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	製品名
JRE	Java Runtime Environment
Linux	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">• Oracle Enterprise Linux®• Oracle Linux®• Red Hat Enterprise Linux®• SUSE Linux® Enterprise Server

B.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
BMC	Baseboard Management Controller
CLI	Command Line Interface
CSV	Comma-Separated Values
DNS	Domain Name System
EFI	Extensible Firmware Interface
FC	Fibre Channel
GUI	Graphical User Interface
HVM	Hitachi Virtualization Manager
MAC	Media Access Control
NIC	Network Interface Card
SMT	Simultaneous Multithreading
SNMP	Simple Network Management Protocol
SSL	Secure Sockets Layer
UTF	UCS Transformation Format
UUID	Universally Unique Identifier
WINS	Windows Internet Name Service
XML	eXtensible Markup Language

B.4 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ $1,024$ バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

B.5 ディレクトリとフォルダの表記について

このマニュアルでは、Linux のディレクトリと Windows のフォルダを総称して「ディレクトリ」と表記しています。Windows 環境では、「ディレクトリ」を「フォルダ」に置き換えてお読みください。

索引

C

CLI

- インストールする (Linux) 14
- インストールする (Windows) 13
- 概要 12
- 環境変数 12
- 環境変数 (Linux) 14
- 環境変数 (Windows) 13
- トラブルシューティング 84
- ヘルプを取得する 22
- ログアウトする 21
- ログインする 20
- CLI コマンド 18
 - コマンド一覧 17
 - 実行書式 17
 - ロール 18
- configure コマンド 19
- CPU の詳細情報 29
- CSMHOME 12

D

- DpmBackup コマンド 63
- dpmbackup コマンド 63
- DpmCreateTemplate コマンド 72
- dpmcreatetemplate コマンド 72
- DpmDeleteImageFile コマンド 68
- dpmdeleteimagefile コマンド 68
- DpmDeploy コマンド 79
- dpmdeploy コマンド 79
- DpmRestore コマンド 66
- dpmrestore コマンド 66
- DpmSnapshot コマンド 69
- dpmsnapshot コマンド 69

F

- FC アダプターの詳細情報 30

G

- GetAlerts コマンド 24
- getalerts コマンド 24
- GetBlade コマンド 40
- getblade コマンド 40
- GetChassis コマンド 46
- getchassis コマンド 46
- getcpu コマンド 29
- getfc コマンド 30
- getfilesystem コマンド 32
- GetHostAlert コマンド 27
- gethostalert コマンド 27
- GetHostCPU コマンド 29
- GetHostFCNetwork コマンド 30
- GetHostFileSystem コマンド 32
- GetHostIPNetwork コマンド 33
- GetHostMemory コマンド 34
- GetHostOs コマンド 36
- GetHostPCI コマンド 37
- GetHostRemoteManagement コマンド 39
- GetHost コマンド 26
- gethost コマンド 26
- getip コマンド 33
- getmemory コマンド 34
- getos コマンド 36
- getpci コマンド 37
- getrmtgmt コマンド 39
- GetTaskInfo コマンド 48
- gettaskinfo コマンド 48

H

- HCSM_CLI_JRE_PATH 12

help コマンド 22

HOME 12

J

JRE

ダウンロードする (Linux) 14

ダウンロードする (Windows) 13

トラブルシューティング 84

L

LAN の詳細情報 33

login コマンド 20

logout コマンド 21

N

N+M コールドスタンバイ

現用ブレードから予備ブレードに切り替える 58

予備ブレードから現用ブレードに切り戻す 60

予備ブレードから現用ブレードに変更する 62

NpmFailback コマンド 60

npmfailback コマンド 60

NpmFailover コマンド 58

npmfailover コマンド 58

NpmReassign コマンド 62

npmreassign コマンド 62

O

OS 情報 36

P

PCI デバイスの詳細情報 37

ping コマンド 22

PowerOFFServer コマンド 51

poweroffserver コマンド 51

PowerOFF コマンド 50

poweroff コマンド 50

PowerONServer コマンド 54

poweronserver コマンド 54

PowerON コマンド 53

poweron コマンド 53

R

RebootOS コマンド 56

rebootos コマンド 56

S

ShutdownOS コマンド 57

shutdownos コマンド 57

U

USERPROFILE 12

あ

アラート

解決 (Resolved) 24

情報取得 24, 27

対策中 (In progress) 24

未対処 (Unconfirmed) 24

い

インストールする

CLI (Linux) 14

CLI (Windows) 13

か

概要

CLI 12

環境変数

CSMHOME 12

HCSM_CLI_JRE_PATH 12

HOME 12

USERPROFILE 12

管理クライアント 12

管理サーバ 12

設定する 19

通信状態をテストする 22

管理対象ホスト 12

CPU の詳細情報 29

FC アダプターの詳細情報 30

LAN の詳細情報 33

OS 情報 36

アラート情報 24, 27

サマリー情報 26

シャットダウンする 57

タスクの情報 48

デバイス情報 39

電源を OFF にする 50

電源を ON にする 53

ファイルシステムの詳細情報 32

メモリーの詳細情報 34

PCI デバイスの詳細情報 37

リブートする 56

こ

コマンド一覧 17

し

システム構成 12

シャーシ

 サマリー情報 46

シャットダウンする

 管理対象ホスト 57

取得系コマンドの出力形式 86

せ

設定する

 管理サーバ 19

た

ダウンロードする

 JRE (Linux) 14

 JRE (Windows) 13

タスクの情報 48

て

デバイス情報 39

デプロイメントマネージャー

 イメージファイルを削除する 68

 スナップショットを取得する 69

 ディスクをバックアップする 63

 ディスクをリストアする 66

 デプロイテンプレートを作成する 72

 マスターイメージをデプロイする 79

電源を OFF にする

 管理対象ホスト 50

 ブレード 51

電源を ON にする

 管理対象ホスト 53

 ブレード 54

と

トラブルシューティング

 JRE 84

ふ

ファイルシステムの詳細情報 32

ブレード

サマリー情報 40

詳細情報 40

電源を OFF にする 51

電源を ON にする 54

へ

ヘルプを取得する 22

め

メモリーの詳細情報 34

り

リポートする

 管理対象ホスト 56

ろ

ロール 18

ログアウトする

 CLI 21

ログインする

 CLI 20

